

令和6年度

桜井市立埋蔵文化財センター

年 報



2025

桜井市立埋蔵文化財センター

令和6年度

桜井市立埋蔵文化財センター

年 報

2025

桜井市立埋蔵文化財センター

はじめに

桜井市立埋蔵文化財センターでは平成元年4月の開館以来、開発事業や学術調査に伴う数多くの発掘調査を実施するとともに、併設された展示収蔵室を中心とした普及・啓発活動や、文化財全般に対する保護や活用を目的として多くの事業を展開してまいりました。

本年報は令和6年度に教育委員会文化財課文化財係がセンターを拠点として取り組んだ事業の概要をまとめたものです。

令和元年末から始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、私共の活動にも多くの制限をもたらし入館者数も大きく減少しましたが、令和6年度は様々な取り組みによって5年振りに5,000人を回復することができました。

まだまだ入館者の多かった頃には遠く及びませんが、今後も職員一丸となってセンターが文化財を活かしたまちづくりの拠点となれるよう、進んでまいりたいと考えています。

最後になりましたが、センターの事業の実施に際し、ご指導ならびにご協力を賜りました関係各位には心より感謝を申し上げ、序文とさせていただきます。

令和7年10月1日

桜井市立埋蔵文化財センター

所長 橋本輝彦

例　　言

1. 本書は、桜井市教育委員会文化財課文化財係が桜井市立埋蔵文化財センターを拠点として令和6年度に実施した事業の概要である。
2. 本書の作成は桜井市教育委員会文化財係が実施し、編集は藤村裕美が担当した。なお、Ⅴ.発掘調査事業の執筆は各担当者が分担し、文末に執筆者名を明記している。

目 次

はじめに

例言

目次

I.	埋蔵文化財センターの概要	1
1.	施設の概要	
2.	組織と人員	
	職員の構成	
3.	桜井市立埋蔵文化財センター沿革	
II.	センター日誌（抄）	3
III.	普及啓発事業	5
1.	展示収蔵室への入館者	
2.	教育・普及	
(1)	展示	
(2)	田原本町との共催事業	
(3)	職場体験	
(4)	見学学習	
(5)	資料の貸出・見学	
(6)	刊行物	
3.	講座・イベント	
(1)	講師の派遣	
(2)	研修等への参加	
4.	その他	
	寄贈	
IV.	文化財保護事業	19
1.	指定文化財	
2.	史跡の追加指定	
3.	指定文化財の維持管理	
(1)	現状変更申請	

(2) 史跡の管理・環境整備

(3) 指定文化財の修理・管理

V. 発掘調査事業.....21

1. 東新堂遺跡第13次発掘調査

2. 上之庄遺跡第12次発掘調査

3. 大藤原京関連遺跡第75次発掘調査

4. 纏向遺跡第205次発掘調査

5. 保存処理

(1) 木製品

(2) 金属製品

(3) 動物遺存体（骨）

VI. 図書の受領.....51

1. 受領図書・パンフレット

I. 埋蔵文化財センターの概要

桜井市内には、さまざまな種類の遺跡が数多く所在しており、全国的に見ても貴重な遺跡が豊富な地域である。その一方で零細な各種開発事業も多く、桜井市ではこれらとの調整も図りながら埋蔵文化財の保護と保存をおこなってきた。結果、出土遺物や記録類の蓄積は膨大な量にのぼり、これらの収蔵とともに活用の道を探ることが課題となった。

このような状況を背景として桜井市立埋蔵文化財センターは市内の埋蔵文化財の発掘及び調査、研究並びに出土品等の整理、保存及び活用を図り、もって市民文化の向上に資することを目的に設置されたものである。

1. 施設の概要

所在地 桜井市大字芝 58 番地の 2

竣工 昭和 63 年 10 月 1 日

開館 平成元年

構造 鉄筋コンクリート造 2 階建

敷地面積 2920.56 m²

建物面積 1,205.69 m²

(内訳) 1 階 743.19 m²

2 階 462.50 m²

駐車場 6 台

主な部屋の面積

展示収蔵室 292 m²

事務室 53.4 m²

整理室 42.25 m²

作業室 66.5 m²

図書資料室 33.75 m²

多目的室 71.68 m²

収蔵庫 185 m²

特別収蔵庫 33.75 m²

展示収蔵室利用案内

開館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分

(入館は午後 4 時まで)

休館日 月・火曜日

(祝日の場合は開館)

年末年始

(12 月 29 日～1 月 3 日)

料金 一般 200 円

(団体 20 名以上は 150 円)

※市内在住の方・中学生以下の方は無料



2. 職員と人員

桜井市立埋蔵文化財センターは桜井市教育委員会文化財課文化財係の一施設（課内室担当）である。文化財課には文化財係と調査研究係の2つの係があり、文化財課長及び文化財係の職員は埋蔵文化財センターの職員も兼務している。

令和6年度における桜井市教育委員会文化財課職員の構成は下記のとおりとなっている。

（1）職員の構成（令和7年3月31日現在）

文化財課	課長（埋蔵文化財センター所長兼務）	橋本輝彦
文化財係		調査研究係
主幹（係長事務取扱）	西村知香	副主幹（係長事務取扱） 丹羽恵二
主査	森井智世子、松宮昌樹	会計年度任用職員 立石千絵、巽 優貴
主任	森暢郎、飯塚健太、 西村知浩	纏向学研究センター
技師 捕	村上朋	所長 寺沢 薫
会計年度任用職員	藤村裕美、藤野千春 宮崎雅人	

3. 桜井市立埋蔵文化財センター沿革

・昭和63年

- 10月 桜井市立埋蔵文化財センター 竣工
桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第20号）公布

・平成元年

- 3月 桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第3号）公布
4月 桜井市立埋蔵文化財センター 開館

・平成17年

- 12月 指定管理者制度の導入にむけて
桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第31号）改正
桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第5号）改正
公益財団法人桜井市文化財協会が指定管理者となる

・令和4年

- 12月 埋蔵文化財センターの指定管理終了にむけて
桜井市立埋蔵文化財センター条例（市条例第23号）改正
桜井市立埋蔵文化財センター施行規則（市教委規則第6号）改正

・令和5年

- 3月 公益財団法人桜井市文化財協会による施設の管理運営が終了
4月 桜井市教育委員会文化財課による施設の管理運営が開始

II. センター日誌（抄）

4月 5日	橿原考古学研究所青柳泰介氏 春季特別展のための 資料貸出	資料見学
4月 10日	連続講座⑧(講師:橋本輝彦)邪馬台国論争の中の纏向 スタジオ三十三 纏向遺跡第183次調査 出土イヌ骨の復元模型の打合せ	7月 10日 飛鳥学院保育所見学学習(40名) 7月 11日 飛鳥学院保育所見学学習(31名) 奈良教育大学金原氏蛍光X線分析調査 7月 12日 発掘調査報告会②
4月 18日	ユニセッション 展示室取材	(講師:森暢郎、西村知浩、飯塚健太)
4月 19日	奈良新聞竹内稔人氏 来所	7月 29日 土舞台顕彰会河村善一氏 来所
4月 24日	令和6年度発掘調査速報展29 「50cm下の桜井」開催 奈良新聞竹内氏 速報展取材	8月 7日 土舞台顕彰会佐藤聞雄氏 来所 8月 13日 読売テレビ長谷仁美氏取材 8月 22日 読売テレビ長谷氏、若一光司氏 他6名 テレビ撮影
5月 8日	読売新聞関口和哉氏 速報展取材 NHK柳澤伊佐男氏 来所	8月 26日 彦根市戸塚洋輔氏、福井大学東村純子氏、 橿原考古学研究所森岡秀人氏 研究のための資料見学
5月 13日	纏向遺跡第183次調査出土イヌ骨の復元 模型検討会	8月 28日 文化財保護審議員谷山正道氏 喜多家文書調査目録 作成
5月 16日	橿原考古学研究所木村理恵氏 2023年度発掘調査速報展のための資料見学	8月 29日 近鉄ケーブルネットワーク 取材
5月 20日	織田小学校 見学学習(18名)	9月 5日 橿原考古学研究所青柳氏 来所
5月 21日	奈良教育大学金原正明氏 古代土師器蛍光X線分析調査	9月 11日 安倍寺跡検討会 9月 12日 橿原考古学研究所吉村氏 秋季特別展のため資料貸出
5月 23日	奈良テレビ 速報展取材	9月 17日 神戸市埋蔵文化財センター阿部氏 秋季企画展のため資料貸出
6月 4日	土舞台顕彰会佐藤聞雄氏 来所	9月 18日 土舞台顕彰会佐藤聞雄氏 来所
6月 6日	宇陀市立菟田野小学校 見学学習(34名)	9月 24日 東京国立博物館山本亮氏 特別展のため資料貸出
6月 11日	橿原考古学研究所吉村和昭氏 資料見学 奈良教育大学金原氏 古代土師器蛍光X線分析調査	9月 25日 毎日新聞矢追健介氏 来所 10月 1日 奈良県世界遺産室長森井順之氏 打ち合わせ
6月 14日	発掘調査報告会① (講師:丹羽恵二、飯塚健太)	10月 2日 特別展「教科書の弥生時代を掘り下げる —桜井市内出土資料をもとに—」開催
6月 17日	大脇潔氏 安倍寺跡第23次調査 出土瓦の検討	10月 16日 橿原考古学研究所平井洸史氏 春季特別展のための資料調査
6月 18日	奈良教育大学金原氏 古代土師器蛍光X線分析調査	10月 24日、25日 桜井中学校 職場体験
6月 27日	橿原考古学研究所木村氏 2023年度発掘調査速報展のため資料貸出	10月 30日 読売新聞関口氏 特別展取材
7月 9日	神戸市埋蔵文化財センター阿部功氏他3名	

11月12日～14日	大三輪中学校 職場体験	1月28日	弥生文化博物館三好 玄氏
11月15日	城島小学校 見学学習(60名)		令和7年度秋季特別展のための資料調査
11月16日	特別展関連講座(講師:西村知浩)	2月4日	長野県立埋蔵文化財センター
11月18日	大阪大学大学院生 修士論文執筆のための資料見学		遠藤恵実子氏 研究のための資料調査
11月22日	eo光テレビ 展示室撮影	2月7日	あいち朝日遺跡ミュージアム田中恵美氏
12月4日	eo光テレビ 展示室撮影		令和7年度秋企画展のための資料調査
12月6日	企画展「実はこんなものがあります ～学芸員のおすすめしたい遺物たち～」開催	2月14日	連続講座⑤(講師:松宮昌樹) 盆地を一望！安倍山丘陵の弥生のムラ
12月10日	NHK柳澤氏 企画展取材	2月21日	橿原考古学研究所伊東菜々子氏
12月12日	谷山氏 喜多家文書調査		研究のための資料調査
12月13日	連続講座①(講師:森暢郎) 纏向遺跡の巴形石製品	2月28日	連続講座⑥(講師:飯塚健太) 古代時代の龍と水田跡
12月16日	なら歴史芸術文化村 打ち合わせ	3月14日	連続講座⑦(講師:村上朋) 直弧文が刻まれた漆塗りの木製品と保存処理について
12月18日	読売新聞関口氏 企画展取材	3月18日	松山市考古館小玉亜紀子氏 令和7年度特別展のための資料調査
12月20日	連続講座②(講師:藤村裕美) 新発見！2200年前の上之庄のムラの姿		神戸市埋蔵文化財センター山田侑生氏 春季企画展のための資料調査
12月27日	奈良テレビ 企画展取材	3月19日	谷山氏 喜多家文書調査
1月7日	読売新聞辰巳隆博氏 来所	3月24日	谷山氏 喜多家文書調査
1月10日	連続講座③(講師:西村知浩) 纏向遺跡の把頭と団扇	3月28日	連続講座⑧(講師:藤村裕美)ついに見つけた！中ツ道
1月14日	谷山氏 喜多家文書調査		
1月24日	連続講座④(講師:橋本輝彦)「箸墓古墳の出現」		

III. 普及啓発事業

1. 展示収蔵室への入館者

入館者に関する詳細は下記表の通りである。令和6年度は各展示のイベントの参加者や団体での見学予約が増加しており、コロナ禍以前の入館者数に戻りつつある。その結果、昨年度より入館者数は400人程度増加した。

開 館 日 数	一般										団体			その他 (関係者・協力者)		講 座 受 講 者 等	入 館 者 数		
	市外					市内		市外		市内				市外	市内				
	大人	割引 (JAF 等)	招待 券	手帳所 有者 (付添 含む)	中学生 以下	大人	中学生 以下	大人	中学生 以下	大人	中学生 以下								
4月	21	278	54	7	7	2	22	2	0	0	0	0	13	7	39	431			
5月	23	362	71	4	14	11	35	18	0	0	0	0	15	0	0	530			
6月	22	223	34	22	13	4	21	0	65	34	0	0	9	8	0	433			
7月	22	160	38	7	5	8	26	0	0	0	0	72	1	6	0	323			
8月	24	183	52	9	10	19	25	3	0	0	0	0	16	0	0	317			
9月	23	282	72	11	20	7	29	0	45	0	0	0	15	6	0	487			
10月	23	245	58	4	18	24	7	1	43	0	0	0	25	21	0	446			
11月	23	400	55	10	12	9	37	67	0	0	0	0	26	9	15	640			
12月	19	144	41	1	4	19	8	0	38	0	0	0	12	6	52	325			
1月	20	202	42	3	7	4	7	1	20	0	0	0	6	1	52	345			
2月	21	211	57	4	2	2	17	2	0	0	21	0	4	2	58	380			
3月	21	244	41	5	5	17	11	2	0	0	0	0	13	1	50	389			
総計	262	2,934	615	87	117	126	245	96	211	34	21	72	155	67	266	5,046			

過去10年間の入館者数

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度/ 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入館者数	5,316	4,303	4,632	5,344	5,613	2,859	3,161	3,686	4,643	5,046

2. 教育・普及

(1) 展示

当センターでは展示収蔵室にて常設展と、平成元年の開館以来、年に数回企画展や特別展を開催している。令和6年度は春に昨年度の発掘調査成果を報告する速報展、秋に特別展、冬に企画展をおこなった。

●常設展示

桜井市が昭和46年からおこなっている発掘調査からの出土資料を中心に展示している。その中には、纏向遺跡から出土した木製仮面などの祭祀遺物や埴輪、大福遺跡で見つかった袈裟襷文銅鐸などがある。旧石器時代から飛鳥・奈良時代までの遺物を時代順に展示することで、桜井市の歴史を学べる構成になっている。



常設展示の様子

●速報展「令和6年度発掘調査速報展 29 50cm下の桜井」

速報展では、毎年前年度実施した発掘調査成果を展示している。前年度には安倍寺跡や大藤原京関連遺跡など計6件の発掘調査をおこなった。今回の速報展では、大藤原京関連遺跡第72次調査で検出した縄文時代の祭祀で使われたとされる分銅形土偶や、安倍寺跡で出土した平瓦などを展示了した。

担当：飯塚 健太

期間：令和6年4月24日（水）～令和6年9月29日（日）

入場者：2,184人



大藤原京関連遺跡第72次調査から出土した
分銅形土偶の展示風景

速報展関連講演会「発掘調査報告会」

令和5年度の発掘成果である安倍寺跡第23次調査、大藤原京関連遺跡第72・73・74次調査、戒重城跡第1次調査とそれぞれの遺跡の概要について、計3回の講座をおこなった。講演終了後には、展示室にて実際に出土した遺物を見学しながら解説を実施した。

日 時：①6月14日（金） 参加者：36人

「桜井市内の古代寺院」

丹羽 恵二

「安倍寺跡第23次調査」

飯塚 健太

②7月12日（金） 参加者：42人

「藤原京を掘る」

森 暢郎

「大藤原京関連遺跡第72・73次調査」

西村 知浩



発表の様子(講師:丹羽)



発表後展示室での解説(講師:飯塚)

「大藤原京関連遺跡第74次調査」

飯塚 健太

③8月9日（金） 参加者：30人

「城館から陣屋へ」

飯塚 健太

「戒重城跡第1次調査」

西村 知浩



発表の様子(講師:西村)



発表の様子(講師:森)



発表後展示室での解説(講師:西村)

●特別展「教科書の弥生時代を掘り下げる—桜井市内出土資料をもとに—」

令和6年度の特別展では、学校の教科書でも学ぶ弥生時代について、発掘調査により土の中から掘り出された土器や石器などを通じて、より深く弥生人たちの暮らしを理解していただくことを目的とした展示をおこなった。

担当：西村 知浩

期間：令和6年10月2日（水）～令和6年12月1日（日）

入場者：1,096人



弥生時代の米作りの道具に関する展示

特別展関連イベント

令和6年度特別展のテーマである教科書に掲載されるような土器や石器を、小・中学生向けに、学芸員といっしょに出土品を実際に触れたりしてもらい、今まで知らなかった弥生時代の魅力を学べるイベントを設けた。

日 時：11月16日（土）

人 数：8人

●企画展「実はこんなものがあります～学芸員のおすすめしたい遺物たち～」

当センターの学芸員が担当した発掘調査や、日々おこなっている調査・研究の内容からおすすめしたい遺物を展示し、その成果からどのようなことがわかったのか当時の思い出などを交えるような展示をした。

担 当：藤村 裕美

期 間：令和6年12月4日（水）～令和7年4月20日（日）

入場者：1,940人



箸墓古墳 渡り土堤の剥ぎ取り

連続講座「学芸員のおすすめ紹介します！」

企画展で展示にした遺物や遺跡について、当時の発掘調査の思い出や日々おこなっている研究の成果などを交えて計8回の講座をおこなった。

日 程：①12月13日、②12月20日、③1月10日、

④1月24日、⑤2月14日、⑥2月28日、

⑦3月14日、⑧3月28日

講 座：①「纏向遺跡の巴形石製品

—最古？の石製品の発見—」

森 暉郎 参加者：26名



連続講座(講師:森)

- ②「新発見！2200年前の上之庄ムラの姿」
藤村 裕美 参加者：25名
- ③「纏向遺跡の把頭と団扇」
西村 知浩 参加者：23名
- ④「箸墓古墳の出現」
橋本 輝彦 参加者：29名
- ⑤「盆地を一望！安倍山丘陵の弥生のムラ」
松宮 昌樹 参加者：28名
- ⑥「古墳時代の龍と水田跡」
飯塚 健太 参加者：29名
- ⑦「直弧文が刻まれた漆塗りの
木製品と保存処理について」
村上 朋 参加者：25名
- ⑧「ついに見つけた 中ツ道！」
藤村 裕美 参加者：24名



連続講座(講師:藤村)



連続講座(講師:西村)



連続講座(講師:橋本)



連続講座(講師:松宮)



連続講座(講師:飯塚)



連続講座(講師:村上)

(2) 田原本町との共催事業

桜井市と田原本町は遺跡を生かしたまちづくりに取り組んでおり、誘客の環境整備も整いつつある。しかし、奈良県への訪問者は奈良市や斑鳩町など神社仏閣を訪れる人が主であることから原始・古代史にも関心をもってもらい、両市町への来訪を促すために、共催シンポジウムを平成30年から企画し、全国各地で開催している。これまでに愛知県名古屋市、大阪府大阪市、田原本町、愛媛県松山市で2回、兵庫県神戸市、広島県の計7回開催し、令和6年度は、兵庫県神戸市と広島県立歴史博物館の共催のもと、「卑弥呼のクニを探る」というテーマのもとシンポジウムを開催し、あわせて兵庫県神戸市では展示室で唐古・纏向を中心とした遺物の展覧会を開催していただいた。

●神戸市埋蔵文化財センターにおける事業

令和6年度神戸市埋蔵文化財センター秋季企画展

『ヤマトとコウベー邪馬台国時代を探るー』

ヤマト王権誕生に関連が深いとされている、纏向遺跡や唐古・鍵遺跡と神戸市内から出土した遺物を神戸市立埋蔵文化財センターで、弥生時代から古墳時代への社会の変化と人々の暮らしについての陳列をしていただいた。

期 間：令和6年9月21日（土）

～令和6年11月24日（日）



神戸市埋蔵文化財センター
展示室入り口付近の様子

兵庫県神戸市・桜井市・田原本町共催シンポジウム

「卑弥呼のクニを探る 邪馬台国時代のヤマトとコウベ」

奈良県桜井市及び田原本町と兵庫県神戸市が共催するイベントとして、弥生時代から古墳時代にかけてのヤマトとコウベの関係についてのシンポジウムを開催した。またシンポジウム当日にはAR・VR体験ブースを設置し、「桜井周遊ARガイドYAMATO」アプリ内にあるAR、VRを体験していただいた。

日 程：9月29日（日）

人 数：約80人

講 演：「邪馬台国時代のコウベ」

阿部 功氏（神戸市文化財課学芸員）

「邪馬台国と唐古・鍵遺跡」

藤田 三郎氏（田原本町埋蔵文化財センター長）

「邪馬台国と纏向遺跡」

橋本 輝彦（桜井市立埋蔵文化財センター所長）

〈シンポジウム〉

コーディネーター：阿部 功氏（兼パネリスト）

パネリスト：藤田 三郎氏、橋本 輝彦



AR体験ブースの様子



講演の様子

●広島県立歴史博物館における事業

広島県立歴史博物館・桜井市・田原本町共催シンポジウム

「卑弥呼のクニを探る～邪馬台国時代の瀬戸内とヤマト」

奈良県桜井市及び田原本町と広島県立歴史博物館立が共催するイベントとして、邪馬台国時代の瀬戸内との関係についてのシンポジウムを開催した。またシンポジウム当日には神戸市と同じく AR・VR 体験ブースを設置し、「桜井周遊 AR ガイド YAMATO」アプリ内にある AR、VR を体験していただいた。

日 程：2月1日（土）

人 数：約 270 人

講 演：「瀬戸内海の弥生墳丘墓と対外交易」

野島 永氏（広島大学教授）

「邪馬台国時代の唐古・鍵遺跡」

藤田 三郎氏

（田原本町埋蔵文化財センター長）

「邪馬台国時代の纏向遺跡」

橋本 輝彦

（桜井市立埋蔵文化財センター所長）

「邪馬台国時代の神辺平野と御領遺跡」

尾崎 光伸氏

（広島県立歴史博物館主任学芸員）

〈シンポジウム〉

コーディネーター：尾崎 光伸氏

パネリスト：野島 永氏、藤田 三郎氏、橋本 輝彦



講演の様子



共催シンポジウムの様子

(3) 職場体験

市内中学生の職場体験を以下の期間で受け入れ、当センターの発掘業務の一端である現場から出土した土器の洗浄・接合や発掘調査現場の見学などを体験してもらった。

体験した生徒からは、「実際に発掘作業を体験してみるととても力のいる作業でとても疲れました。」「もう一度発掘調査がしたい。」などの感想を得た。

学 校 名	期 間	人 数	内 容
桜井中学校	10月24日～10月25日	2人	土器洗浄・土器接合・鋳造体験・発掘調査現場の見学など
大三輪中学校	11月12日～11月14日	3人	



土器の洗浄



鋳造体験



発掘調査現場の見学



土器の接合

(4) 見学学習

以下の日程で、市内・市外の保育所・小学校等の児童・生徒が見学学習に訪れた。展示収蔵室では、市内で出土した遺物を通じて過去から現在までの人々の生活がどのように変化していくのかなどを解説し、2階多目的室では、各校区の主な遺跡についての解説や、実際に土器の接合の体験などをおこなった。

学校名(団体名)	日程	人数
織田小学校(6年生)	5月20日	18人
宇陀市立菟田野小学校(6年生)	6月6日	34人
飛鳥学院保育所	7月10日	40人
飛鳥学院保育所	7月11日	31人
城島小学校(6年生)	11月15日	60人



展示収蔵室にて全体の解説



多目的室にて遺物の解説

(5) 資料の貸出・見学

令和6年度は、当センターで保管されている資料の貸出7件、写真掲載が45件、資料見学4件の申請等が計56件（来年度分貸出等も含む）提出された。また資料見学のうち1件が大学院生の論文作成に伴う見学であった。これらの以下表は今年度他の博物館等に資料の貸出をおこなったものや、写真の掲載許可を出したもの、資料の見学の一覧である。

資料貸出

貸出先・展示のタイトル	貸出期間	遺跡名	資料名	点数
九州国立博物館 平常展	通年	小立古墳	石見型木製品	2点
唐古・鍵考古学ミュージアム 常設展	通年	纏向遺跡	甕・高壺	2点
国立民族学博物館 特別展『日本の仮面—芸能と祭りの世界』	3月21日～6月30日	纏向遺跡 大福遺跡	木製仮面 仮面状木製品	2点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 春季特別展『家形埴輪の世界』	4月1日～7月12日	纏向遺跡	家形埴輪	1点
東京国立博物館・九州国立博物館 特別展『はにわ』	9月24日～ 令和7年6月10日	小立古墳	大刀形木製品 鞍形木製品	2点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2023年度発掘調査速報展『大和を掘る39』	6月27日～10月18日	吉備池遺跡 安倍寺遺跡	円筒埴輪 滑石製勾玉 等	19点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 令和6年度秋季特別展『甲冑—古墳時代の武威と技術—』	9月12日～12月27日	大福遺跡	木甲 木甲復元品	5点

神戸市埋蔵文化財センター 令和6年度秋季企画展『ヤマトとコウベー邪馬台国時代を探るー』	9月17日～12月6日	纏向遺跡	木製仮面 弧文板 等	29点
--	-------------	------	---------------	-----

写真貸出

申請者名	遺跡名	資料名	点数
葛城市歴史博物館	脇本遺跡	掘立柱建物写真	1点
(公財)黒石市民財団	箸墓古墳	航空写真(俯瞰)	1点
個人	纏向遺跡	168次調査出土 桃核	1点
(株)梓書院ライター	箸墓古墳 纏向遺跡	全景写真(俯瞰) 辻地区建物跡写真 等	4点
個人		纏向日代宮石碑写真	1点
(一社)桜井市観光協会	桜井茶臼山古墳	航空写真	1点
クリンチノット	纏向遺跡 等	航空写真 166次調査 建物跡写真 等	3点
(株)本作り空Sola	纏向遺跡	航空写真	1点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	安倍寺遺跡 吉備池遺跡	調査区全景写真 19次調査 竪穴住居跡写真 等	6点
(株)ケーテン	箸墓古墳	航空写真(俯瞰)	3点
個人	大福遺跡	仮面状木製品	1点
(株)一個人出版	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真 辻地区航空写真 等	5点
神戸市埋蔵文化財センター	纏向遺跡	航空写真 辻地区航空写真 等	22点
(株)新泉社	纏向遺跡 茅原大墓古墳	鶴形埴輪写真 盾持人埴輪写真	2点
(有)青垣出版	脇本遺跡	4次調査写真	1点
個人	茅原大墓古墳 小立古墳	盾持人埴輪 石見型盾形木製品	2点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大福遺跡	28次調査出土 木甲	1点
桜井市忍阪区自治会	赤坂天王山古墳	1号墳石室内写真	1点
個人	纏向遺跡	168次調査出土 桃核	1点
毎日新聞社	纏向遺跡 ホケノ山古墳	弧文円板 画文帯神獸鏡 等	8点
天理市教育委員会	纏向遺跡	冠帽形埴輪 鶴形埴輪	3点

(株)ABCアーク	纏向遺跡	辺地区建物D復元CG写真 辺地区建物群航空写真 等	3点
(株)オフィス三銃士	纏向遺跡	辺地区航空写真 木製仮面 等	5点
(株)京都ホテル	山田寺跡	風景写真	1点
彦根市役所 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 福井大学	纏向遺跡	古式土師器実測図	1点
斑鳩町教育委員会	赤坂天王山古墳	石室全景写真 実測図 等	4点
(株)朝日新聞社	纏向遺跡	木製仮面 外来系土器 等	7点
個人	纏向遺跡	辺地区建物群復元CG	1点
(株)NHK出版 放送・学芸図書編集部	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真 搬入土器 等	6点
読売新聞東京本社社会部	纏向遺跡	168次調査出土 桃核	1点
朝日新聞出版書籍編集部	磐余遺跡	小立古墳出土車輪	1点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	芝遺跡	子持勾玉	1点
(株)宝島社	箸墓古墳 纏向遺跡	航空写真 木製仮面	5点
個人	箸墓古墳	航空写真	1点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	纏向遺跡 赤尾熊ヶ谷古墳 等	鉄滓 出土遺物 等	29点
杜出版(株)	箸墓古墳 纏向遺跡 等	航空写真 等	8点
個人	纏向遺跡	導水施設	2点
(一財)橿原考古文化財団	桜井茶臼山古墳	石室石材写真 等	5点
近鉄ケーブルネットワーク(株)		桜井市立埋蔵文化財センター 展示収蔵室	1点
(株)一個人出版	纏向遺跡 箸墓古墳 等	航空写真 在地土器と搬入土器 等	10点

資料見学

見学者	見学日	遺跡名	資料名	点数	目的
彦根市役所 戸塚洋輔氏 奈良県立橿原考古学研究所 森岡秀人氏 福井大学 東村純子氏	8月26日	纏向遺跡	土坑出土土器 巾着状布製品	一式 1点	古墳時代初頭の繊維製品 の研究及び稻部遺跡出土 鞆との比較研究

大阪大学大学院生個人	11月18日	栗原鳥ヶ谷地区	骨蔵器	1点	修士論文執筆のため
長野県埋蔵文化財センター遠藤恵実子氏	2月4日	磐余遺跡群 纏向遺跡	盾形木製品 弧文石 弧文板	3点	直弧文研究のため
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 伊藤菜々子氏	2月21日	桜井公園 遺跡群	海獸葡萄鏡	1点	小型海獸葡萄鏡の研究のため

TV・新聞の取材

出版社・制作会社	種目	日付	内容・題目	掲載紙面・番組名
奈良新聞	新聞	4月24日	令和6年度速報展29「50cm下の桜井」の取材	奈良新聞
読売新聞	新聞	5月8日	令和6年度速報展29「50cm下の桜井」の取材	読売新聞
奈良テレビ	テレビ	5月23日	令和6年度速報展29「50cm下の桜井」の取材	奈良テレビ
読売テレビ	テレビ	8月22日	かんさい情報ネットten. 「Let's go! 若一調査隊」	読売テレビ
読売新聞	新聞	10月30日	特別展「教科書の弥生時代を掘り下げる—桜井市内出土資料をもとに—」の取材	読売新聞
NHK 奈良放送局	テレビ	12月10日	企画展「実はこんなものがあります～学芸員のおすすめしたい遺物たち～」の取材	NHK奈良放送局
読売新聞	新聞	12月18日	企画展「実はこんなものがあります～学芸員のおすすめしたい遺物たち～」の取材	読売新聞
奈良テレビ	テレビ	12月27日	企画展「実はこんなものがあります～学芸員のおすすめしたい遺物たち～」の取材	奈良テレビ

(6) 刊行物

令和6年度は、以下の書籍・パンフレット等を刊行した。

書籍名	刊行日	部数	内容
『令和6年度速報展29 50cm下の桜井』 パンフレット	令和6年4月	3,000部	令和6年度速報展パンフレット
『教科書の弥生時代を掘り下げる—桜井市内出土資料をもとに—』パンフレット	令和6年10月	2,500部	令和6年度特別展パンフレット
『実はこんなものがあります～学芸員のおすすめしたい遺物たち～』パンフレット	令和6年12月	2,500部	令和6年度企画展パンフレット
『令和5年度桜井市立埋蔵文化財センター年報』	令和6年12月	400部	桜井市立埋蔵文化財センターを拠点として取り組んだ事業の成果報告
『令和5年度国庫補助による発掘調査報告書』	令和7年2月	300部	令和5年度に国庫補助で実施した安倍寺跡第23次調査の発掘調査報告

3. 講座・イベント

(1) 講師の派遣

職員の講師派遣の依頼については、当センター技術職員は桜井市郷土学研究センター研究員を兼務していることもあり、その内容については『桜井市郷土学研究センター年報』に集約しているため、これを参照されたい。

(2) 研修等への参加

以下の協議会が開催する研修会に職員を派遣し、他機関との交流や技術研修をおこなっている。これらの会議への参加・出席実績は以下のとおりである。

名称	内容	期日	場所	参加者
奈良県市町村文化財保護活動協議会総会、研修会	令和5年度事業報告・会計決算報告について 令和6年度事業計画・会計予算について	5月17日	斑鳩町いかるがホール	上田 陽一 西村 知香
奈良県市町村文化財保護活動協議会第2回研修会	大淀町文化財保存活用地域計画の背景にあるものについて 大淀町大岩地区を訪ねて	2月14日	大淀町文化会館ひだまりホール	西村 知香
奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会総会	令和5年度事業報告及び決算報告書について 令和6年度事業計画及び予算について	7月5日	川西文化会館	—
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	令和5年度事業報告・収支決算・監査報告 令和5年度新規加盟組織の勧誘について 発掘された日本列島2024展について 令和6年度事業計画・収支予算・総会及び研修会開催について 令和8年度以降の総会・研修会等の幹事機関について 全国埋蔵文化財法人連絡協議会との連携について エクスカーション	5月30日 ・31日	岩手県アートホテル盛岡など	橋本 輝彦
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第36回研修会	中部高地の縄文文化について 日本遺産の取組と展望について 北杜市の日本遺産の取組と展望について 市民ボランティアによる史跡梅之木遺跡の竪穴住居の復元について 現地研修	10月17日 ・18日	山形県須玉ふれあい館	村上 朋
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会近畿ブロック会議	令和6年度第1回総会の報告について 今後の役員機関の確認について 議事提案事項についての協議・意見交換	10月25日	滋賀県東近江市埋蔵文化財センター	—
令和6年度(第25回)全史協近畿地区協議総会、研修及び現地研修会	令和5年度事業報告・役員の選任について 令和6年度事業計画及び予算について 次期開催地について	7月22日	兵庫県高砂勤労者福祉センター	—
第59回全国史跡整備市町村協議会大会	令和5年度事業報告及び決算報告について 令和6年度補正予算・令和7年度事業計画及び予算について 多賀城再考～東アジアの中の多賀城～について 情報交換会 エクスカーション	10月9日 ～11日	宮城県多賀城市文化センターほか	橋本 輝彦
全国史跡整備市町村臨時大会	都道府県別陳情活動について 陳情報告会	11月15日	東京都ホテルニューオータニ	—

4. その他

寄贈

市内在住の個人より、所蔵している庚申講関係資料を当センターへ寄贈したいとの申し出があり、令和6年8月6日にご寄贈いただいた。

これらの資料は、庚申信仰の様子を知る上での大変貴重な資料であり、郷土資料として保存していきたいと考えている。



庚申講中峠宿帳



宿帳が入っていた木箱



庚申掛軸

IV. 文化財保護事業

1. 指定文化財

桜井市内の指定文化財は、国指定文化財 75 件、県指定文化財 46 件、市指定文化財 44 件の計 165 件が認定されている。以下が指定文化財の内訳を示した表である。令和 6 年度は、新たに登録されたものや、追加指定された文化財はない。

指定文化財一覧

種別	有形文化財												無形文化財	民俗文化財		記念物		計			
	国宝				重要文化財									有形民俗文化財	無形民俗文化財	特別史跡	史跡	天然記念物			
指定区分	建造物	彫刻	工芸	書跡・典籍	考古資料	建造物	彫刻	絵画	工芸	書跡・典籍	考古資料	歴史資料	古文書	歴史資料							
国指定	1	2	1	1	1	10	12	9	15	4		1				1	2	14	1	75	
県指定						6	6	10	6	1	1	1	1		1	1	2		5	5	46
市指定						5	7	3	5		11		2				1		3	7	44
計	1	2	1	1	1	21	25	22	26	5	12	2	3	0	1	1	4	2	22	13	165

2. 史跡の追加指定

令和7年3月10日付で、史跡纏向遺跡の太田地区において追加指定が告示された。詳細は『令和6年度桜井市纏向学研究センター年報』に掲載しているので、参照されたい。

3. 指定文化財の維持管理

(1) 現状変更申請

令和6年度に桜井市内の指定文化財に対する現状変更の申請は、史跡名勝天然記念物5件、奈良県指定文化財2件、桜井市指定文化財1件であった。

	種別及び名称	目的及び原因
①	史跡 大神神社境内	長谷寺拝殿東北瑞垣小修理工事に伴う仮説足場設置工事のため
②	史跡 大神神社境内	境内末社の貴船神社の社、鳥居周辺の土砂が流失、また参道階段部分のコンクリートが劣化し、参拝者の通行に支障をきたしているので、改修等による危険性の排除のため
③	史跡 箸墓古墳周濠	店舗改装工事用の一時的な仮説事務所、仮設倉庫、仮設トイレの設置のため
④	史跡 桜井茶臼山古墳	公有地化に伴う工作物・樹木の除却・伐採をおこなうため
⑤	史跡 桜井茶臼山古墳	道路災害復旧工事の際の一時的な駐車場・バリケードの設置のため

⑥	県指定文化財 多武峰 町石	宅地開発工事にあたり、開発後に町石が車両の出入りの障害となるので、移設作業をおこなうため
⑦	県指定文化財 多武峰 町石	平成28年に道路改良工事のため移設した町石を元の場所に再設置するため
⑧	市指定文化財 與喜天 満神社お旅所紅梅	大枝の枯死、枯枝が落下の恐れがあり、枝の剪定を支柱の設置をおこなうため

(2) 史跡の管理・環境整備

史跡地及びその周辺は、見学者が快適に見学できるように年に数回、地元自治会及び外部への委託をおこなって剪定・草刈りを実施している。

【実施個所】

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------|
| ①埋蔵文化財センター | ②国史跡 纏向遺跡（辻地区） | ③国史跡 纏向遺跡（太田地区） |
| ④国史跡 箸墓古墳周濠 | ⑤国史跡 安倍寺跡 | ⑥国史跡 纏向石塚古墳 |
| ⑦コロコロ山古墳 | ⑧国史跡 艸墓古墳 | ⑨市史跡 上之宮遺跡 |
| ⑩朝倉台2号公園 | ⑪朝倉台6号公園 | ⑫市史跡 兜塚古墳 |
| ⑬国史跡 珠城山古墳群 | ⑭国史跡 茅原大墓古墳 | ⑮国史跡 ホケノ山古墳 |
| ⑯国史跡 吉備池廃寺跡 | ⑰特別史跡 山田寺跡 | |

(3) 指定文化財の修理・管理

桜井市では指定文化財の修理・管理の必要な経費に対して部分的補助をしており、令和6年度におこなった事業は以下の通りである。

	内容	所有者
①	国指定重要文化財長谷寺 三百餘社千木・鰹木の小修理事業	長谷寺
②	国指定重要文化財大神神社三ツ鳥居 三ツ鳥居附瑞垣の小修理事業	大神神社

V. 発掘調査事業

令和6年度に民間開発等による埋蔵文化財発掘届出書（文化財保護法第93条第1項）は139件、地方公共団体等による通知（文化財保護法第94条第1項）は18件で計157件を数える。そのうち試掘調査は2件、立会調査は21件、発掘調査は5件であった（表1）。このうち本書では、発掘調査のうち令和6年度に終了した計4件について報告する。

表1 令和6年度発掘調査一覧

No.	調査名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因	担当者	備考
1	東新堂13次	東新堂361-1	5月14日～6月14日	176.7m ²	商業施設建設	西村・村上・宮崎	受託事業
2	上之庄12次	東新堂512-3、上之庄220-1他26筆	8月19日～10月11日	248m ²	商業施設建設	飯塚・松宮・宮崎	受託事業
3	大藤原京75次	大福178-19、178-20	10月15日～11月29日	96.5m ²	道路拡張工事	飯塚・松宮・宮崎	受託事業
4	纏向205次	太田71の一部他16筆	1月8日～3月31日	150m ²	宅地造成工事	飯塚・松宮・宮崎	受託事業
5	大福40次	大福901-1 他70筆	2月12日～8月8日	952m ²	店舗造成工事	西村・村上	受託事業



図1 令和6年度 発掘調査位置図 (S=1/40,000)

1. 東新堂遺跡第13次発掘調査

1. はじめに

本調査は奈良県桜井市大字東新堂小字小柳において、店舗建築に先立っておこなわれた埋蔵文化財発掘調査である。東新堂遺跡は、以前から弥生時代前期の遺物が出土することで知られる遺跡であるが¹⁾、近年の調査では縄文土器や中世遺構²⁾の出土とともに、藤原京期の遺物の存在が報告されている。調査地は東新堂集落の北側にあたるが、第3・5次調査では、いずれも平安から鎌倉期の掘立柱建物が検出されている^{3・4)}。届出地の店舗建築予定地に第1トレンチ（東西3m、南北26.7m）と、第2トレンチ（東西3m、南北26m）を設け、調査終盤に第1・2トレンチを東西に繋いだ拡張区（東西12.4m、南北1.5m）を設けた。調査面積は合計176.7m²である。現地調査は令和6年5月14日に着手し、同6月14日に完了している。

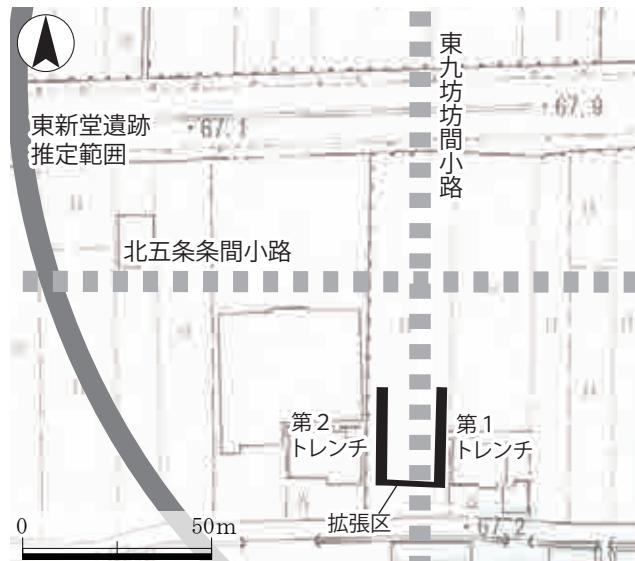


図2 調査位置図 ($S=1/2,000$)



図3 調査区位置図 ($S=1/15,000$)

2. 調査の内容

(1) 調査地の基本層序

基本層序は、現地表面から順に現代耕作土層（第1・2層 層厚10～30cm）、旧耕作土層（第3層 層厚10～20cm）、中・近世耕作土層（第11～13、18～20層 層厚15～25cm）、中世耕作土層（第25～28、30層 層厚5～15cm）、地山層（第34～46層 層厚55cm以上）である。まず、現代耕作土層から中世耕作土層までを重機で掘削し、地山層上面（GL -40～-50cm）で遺構を検出した。

①第1トレーンチの概要

近世の遺構としては、方形土坑SX101、SX102を確認した。SX101は東西2.1m以上、南北2.1m、深さは約1.8mで、土師器、陶器、炮烙、瓦、瓦質土器等とともに、黒漆塗り木製椀が出土している。SX102は東西1.2m以上、南北1.7m、深さは1.42m以上である。SX102からは遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、SX101と同一面から掘削されていることや、壁面が垂直に近い角度で立ち上がっている点等から同様の目的で掘削されている可能性は高いと言えるであろう。SX101、SX102については、今回の調査地の北東で実施された上之庄遺跡第9次調査でも類似した土坑（粘土採掘坑）が確認されていることから、粘土採掘坑の可能性が考えられる。また、中世の遺構としては、南北方向の素掘り小溝を確認している。素掘り小溝は南北9.3m以上、幅約22cmの遺構である。遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第2トレーンチの素掘り小溝と同一面から掘削されていることや、規模等が類似すること等から中世の遺構と考えられる。

②第2トレーンチの概要

中世の遺構としては、南北方向の素掘り小溝と土坑状遺構SX201を確認した。素掘り小溝からは鉄滓、土師器、瓦器が出土している。SX201は東西1.5m以上、南北1m、深さ約60cmの遺構で、土師器、須恵器、瓦器が出土しており、その土器の編年から平安時代の遺構と考えられる。

③拡張区の概要

拡張区では、計13基のピットが確認された。いずれも円形ないし長円形を呈するものであった。このうち藤原京期の遺構としては、SP01とSP02が考えられる。SP01、SP02については、埋土や規模等の共通性がみられた。また、SP01は南西方向、SP02は南東方向に柱を抜き取ったと考えられる歪な平面形状となっていることから、南北棟建物の南辺を構成する柱穴の可能性がある（図2参照）。SP01の残存深は18cm、SP02の残存深は20cmであった。これらのことから、2基の柱穴は同一の構造物を構成する遺構であると考えられる。仮に同一の構造物であるとした場合には、検出状況から柵列や東西棟建物とは考えにくく、南北棟建物の南辺を構成する柱列となる可能性がある（図2参照）。残りの11基のピットは、SP01、SP02と埋土が異なることや、藤原京東九坊坊間小路の推定ライン上に掘削されたものがあること、出土した遺物の年代等から中世と考えられる。

(2) 出土遺物

本調査で出土した遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、木器のコンテナケース3箱分である。図化できるものを図7で示した。個々の遺物の詳細な観察所見等は遺物観察表（表2）を参照された

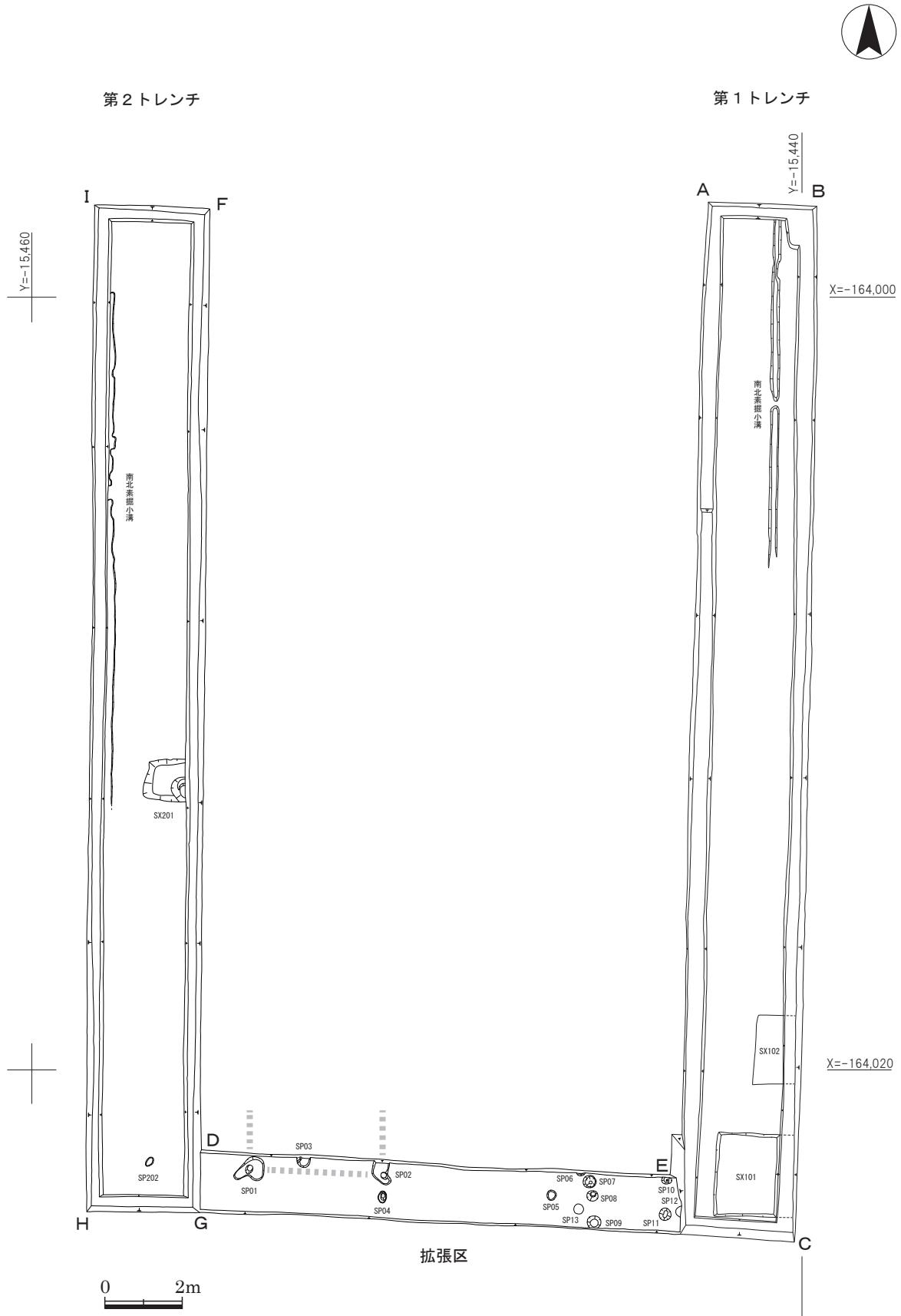


図4 東新堂遺跡第13次調査 遺構平面図 (S=1/150)

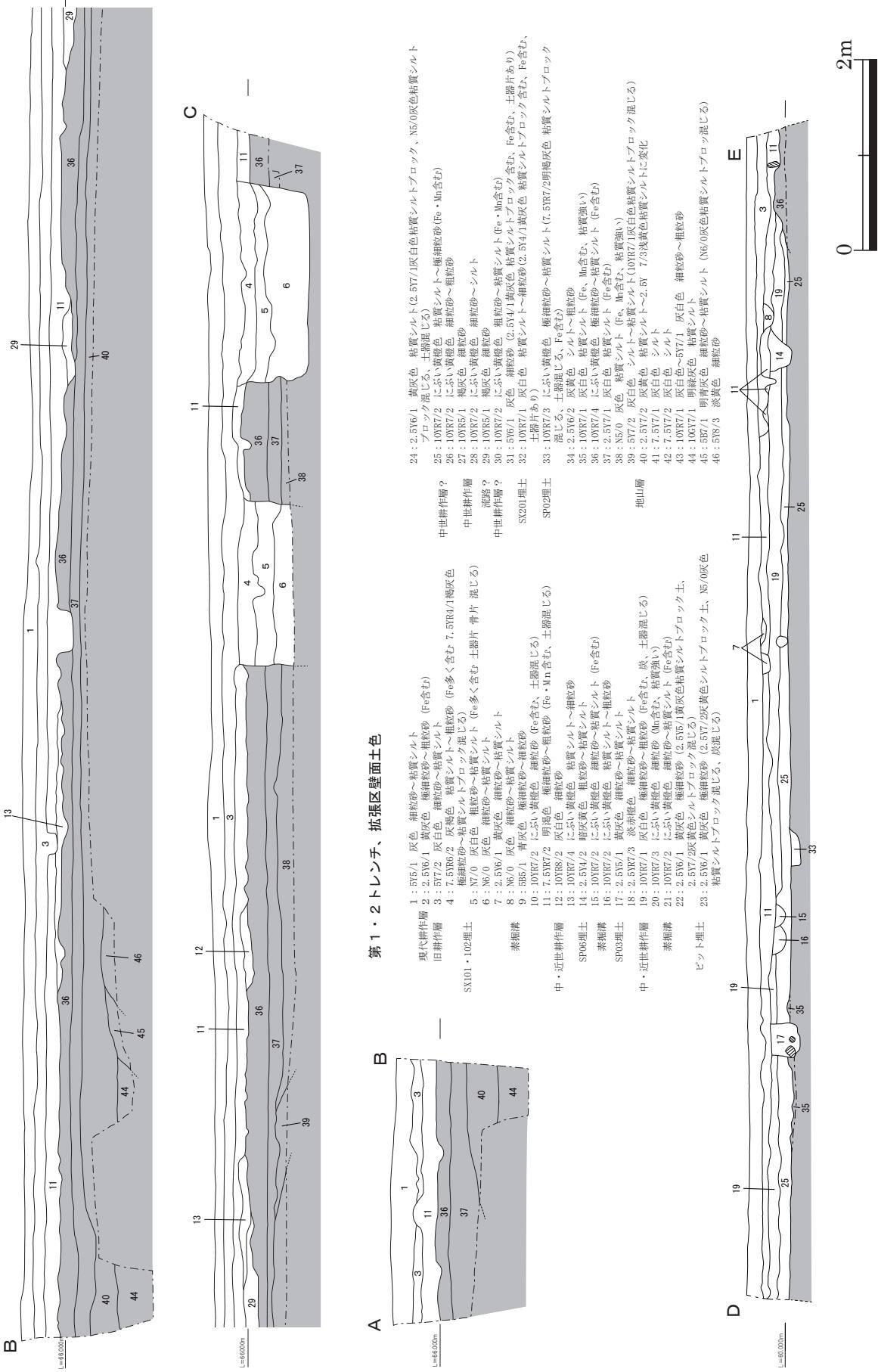
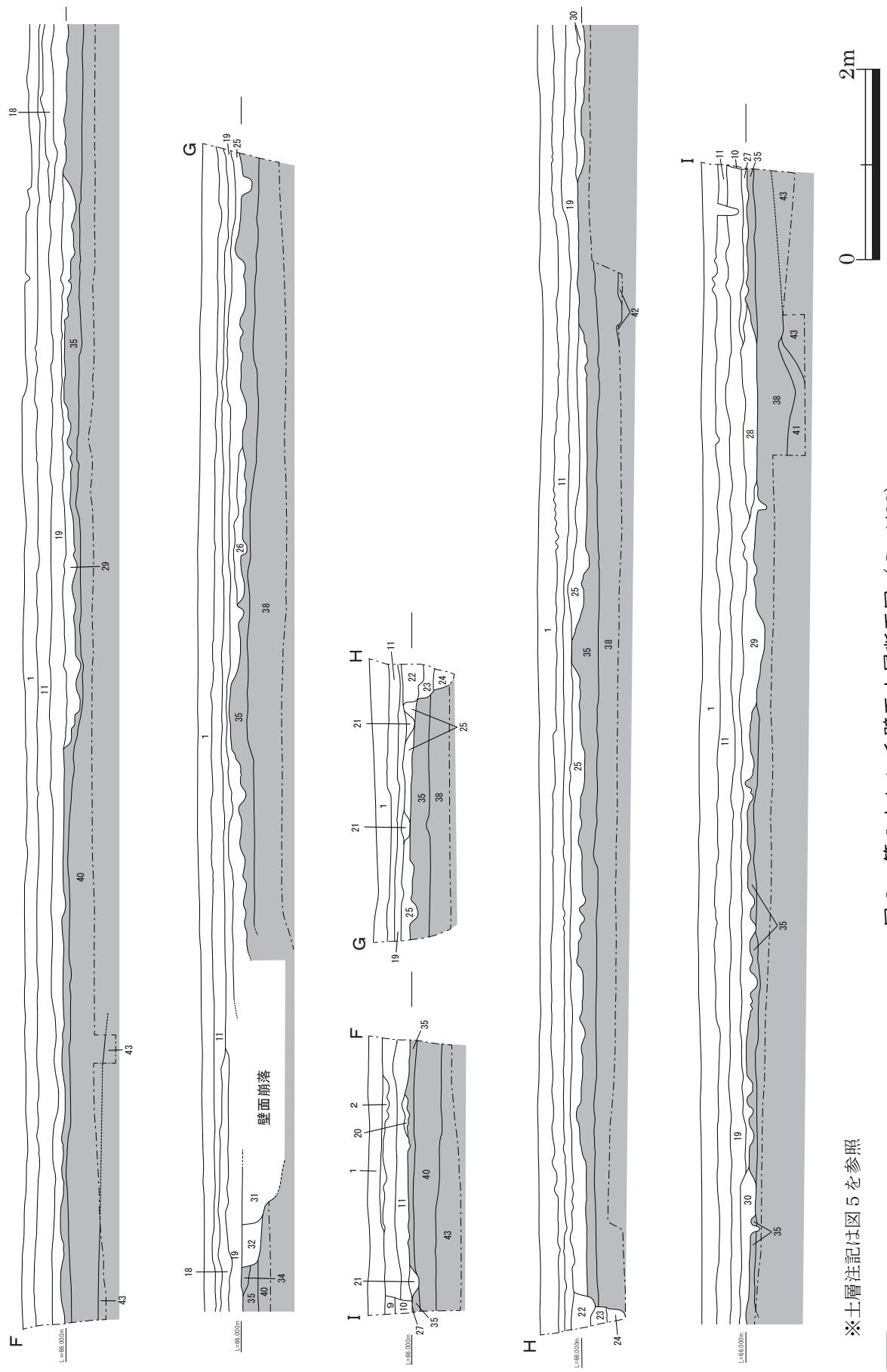


図5 第1トレーンチ・拡張区壁面土層断面図 (S=1/60)



※土層注記は図5を参照

: 地山

図6 第2トレンチ壁面土層断面図 (S=1/60)

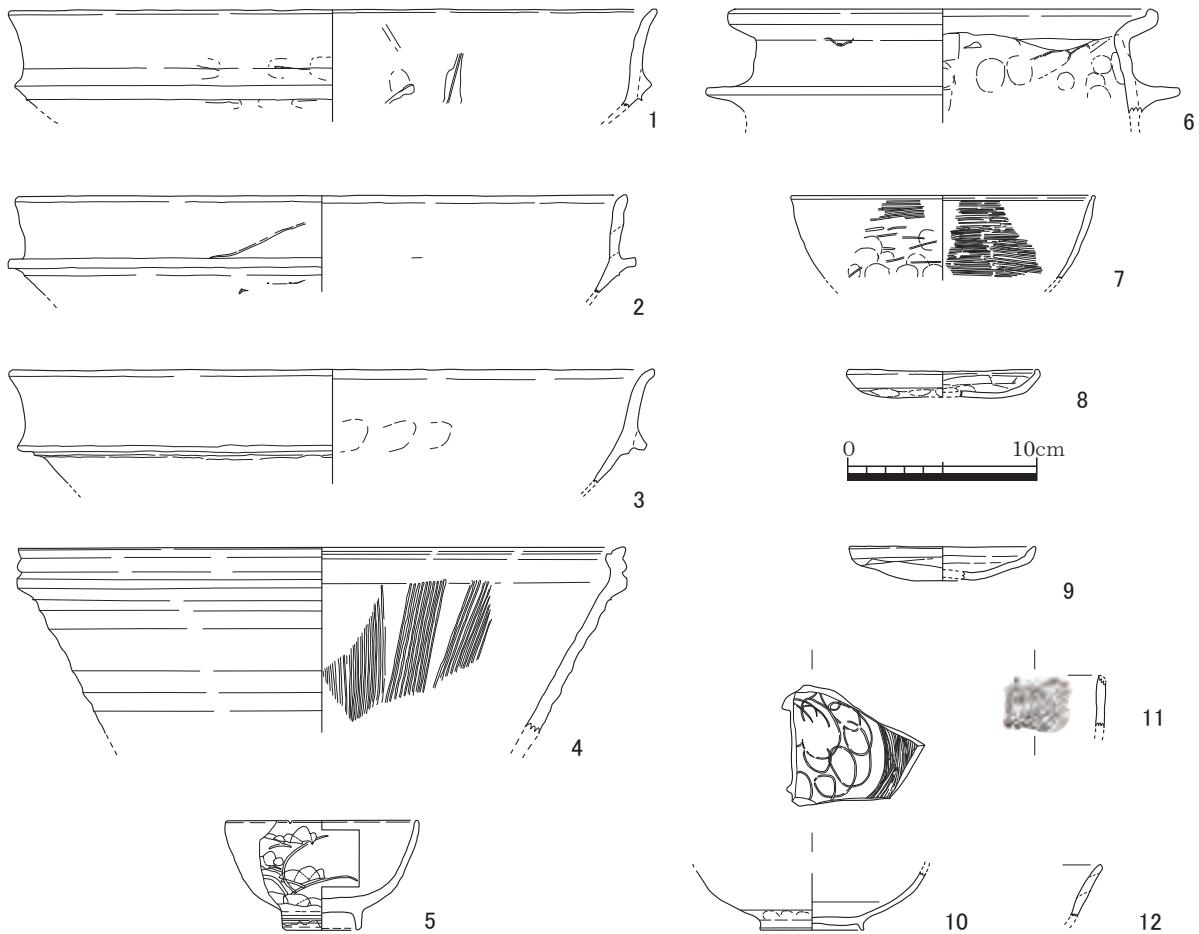


図7 出土遺物実測図 (S=1/4)

い。1～5は第1トレンチのSX101から出土した遺物である。6～8は第2トレンチの南北素掘り小溝から出土した。9～10は第2トレンチのSP201から出土した遺物である。11・12は第2トレンチの側溝掘削中に出土した。

3.まとめ

調査の結果、第1トレンチで近世の方形土坑2基と中世の素掘り小溝1条を確認した。また、第2トレンチでは中世の素掘り小溝1条と土坑状遺構1基を、拡張区では藤原京期と中世のピット計13基を確認することができた。なお、拡張区での確認が期待された東九坊坊間小路については、その痕跡を確認することはできなかった。しかしながら、東新堂遺跡第10次調査で検出された藤原京期の建物と同時期のピットを検出できたのは今回の成果と言えるであろう。今後の発掘調査で、東新堂遺跡全体の藤原京期の遺構や、中世の東新堂村の遺構の状況が明らかになることを期待したい。

(西村)

【参考文献】

- 1)厚芝保一1940「大福村新屋敷付近の弥生式土器」『磯城』3巻2号
- 2)小畠佳子2002「東新堂遺跡第8次発掘調査報告」『平成13年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 3)清水真一1996「東新堂遺跡第3次発掘調査報告」『平成7年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会

4)橋本輝彦1998「東新堂遺跡第5次調査報告」『平成9年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会

5)福辻 淳2004「東新堂遺跡第10次発掘調査報告」『桜井市内埋蔵文化財2003年度発掘調査報告書2』(財)桜井市文化財協会

表2 東新堂遺跡第13次調査 出土遺物観察表

図番号 図版3-1	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	法量(cm)			残存	胎土	色調	備考
						口径	底径	器高 (残高)				
図7-1 図版3-1	土師器	炮烙	第1トレンチ SX101		外面:ヨコナデ、外型成形 内面:ヨコナデ	(34)		(5.2)	口径1/14	密(1mm以下 の砂粒・雲母 を含む)	外面:N3/0暗灰色~N1.5/0黒色 内面:2.5Y6/2灰黄色	
図7-2 図版3-2	土師器	炮烙	第1トレンチ SX101		外面:ヨコナデ、外型成形 内面:ヨコナデ	(32)		(5.2)	口径1/20	密(1mm以下 の砂粒・赤褐色など)	外面:2.5Y6/1、2.5Y5/1、2.5Y4/1黄灰色 内面:2.5Y6/1黄灰色~2.5Y6/2灰黄色	
図7-3 図版3-3	土師器	炮烙	第1トレンチ SX101	黑色粘質土	外面:ヨコナデ、外型形成 内面:ヨコナデ、指痕	(34)		(6)	口径1/12	密(1mm以下 の砂粒・赤褐色 ・雲母を多 く含む)	外面:2.5Y6/2、2.5Y4/1 灰黄色、2.5Y3/1黒褐色 内面:2.5Y7/2、2.5Y6/2灰黄色	
図7-4 図版3-4	陶器	擂鉢	第1トレンチ SX101	黑色粘質土	外面:ナデ、回転ナデ 内面:ナデ、ナデ後10条1単位 の振り目	(32)		(9.8)	口径1/16	密(2mm以下 の砂粒を含 む)	外面:7.5R4/2灰赤色 内面:7.5R4/2灰赤色	
図7-5 図版3-5	磁器	塊	第1トレンチ SX101	黑色粘質土	外面:灰色釉 内面:灰色釉	10		(5.8)	口径1/3	密(1mm以下 の白い砂礫含 む)	外面:10Y7/1灰白色 内面:10Y7/1灰白色	
図7-6 図版3-6	土師器	羽釜	第2トレンチ 南北素掘小溝		外面:ナデ 内面:ナデ、指オサエ	(22)		(5.5)	口径1/5	密	外面:10YR8/2灰白色、N5/0灰色 内面:10YR8/2灰白色、7.5Y4/1褐灰色	
図7-7 図版3-7	瓦器	塊	第2トレンチ 南北素掘小溝		外面:暗文、指オサエ 内面:暗文	(16)		(4.4)	口径1/3	密	外面:N5/0灰色 内面:N5/0灰色	
図7-8 図版3-8	土師器	皿	第2トレンチ 南北素掘小溝		外面:ヨコナデ、指オサエ 内面:ヨコナデ、指オサエ、板ナ デ	(10)		(1.5)	口径1/3	密	外面:10YR5/1褐灰色 内面:10YR6/3黄橙色	
図7-9 図版3-9	土師器	皿	第2トレンチ SP201		外面:ケズリ、ケズリ後ナデ 指オサエ 内面:ナデ、指オサエ	(10)		(2.8)	口径1/6	密	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 10YR4/1褐灰色 内面:5YR6/6橙色	
図7-10 図版3-10	瓦器	塊	第2トレンチ SP201		外面:ナデ、指オサエ 内面:暗文		5.4	(3)	底部1/6	密	外面:N5/0灰色~N4/0灰色 内面:N3/0暗灰色	大和型
図7-11 図版3-11	縄文土器	鉢	第2トレンチ 側溝		外面:ナデ、縄目 内面:ナデ					密(5mm~1mm 以下の砂粒他 を多く含む)	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 10YR6/2灰黄褐色 内面:10YR5/2灰黄褐色、10YR4/1褐灰色	図7-12と同一
図7-12 図版3-12	縄文土器	鉢	第2トレンチ 側溝		外面:ナデ 内面:ナデ					密(3mm以下 の砂粒他を多 く含む)	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 10YR6/2灰黄褐色 内面:10YR5/2灰黄褐色、10YR4/1褐灰色	図7-11と同一

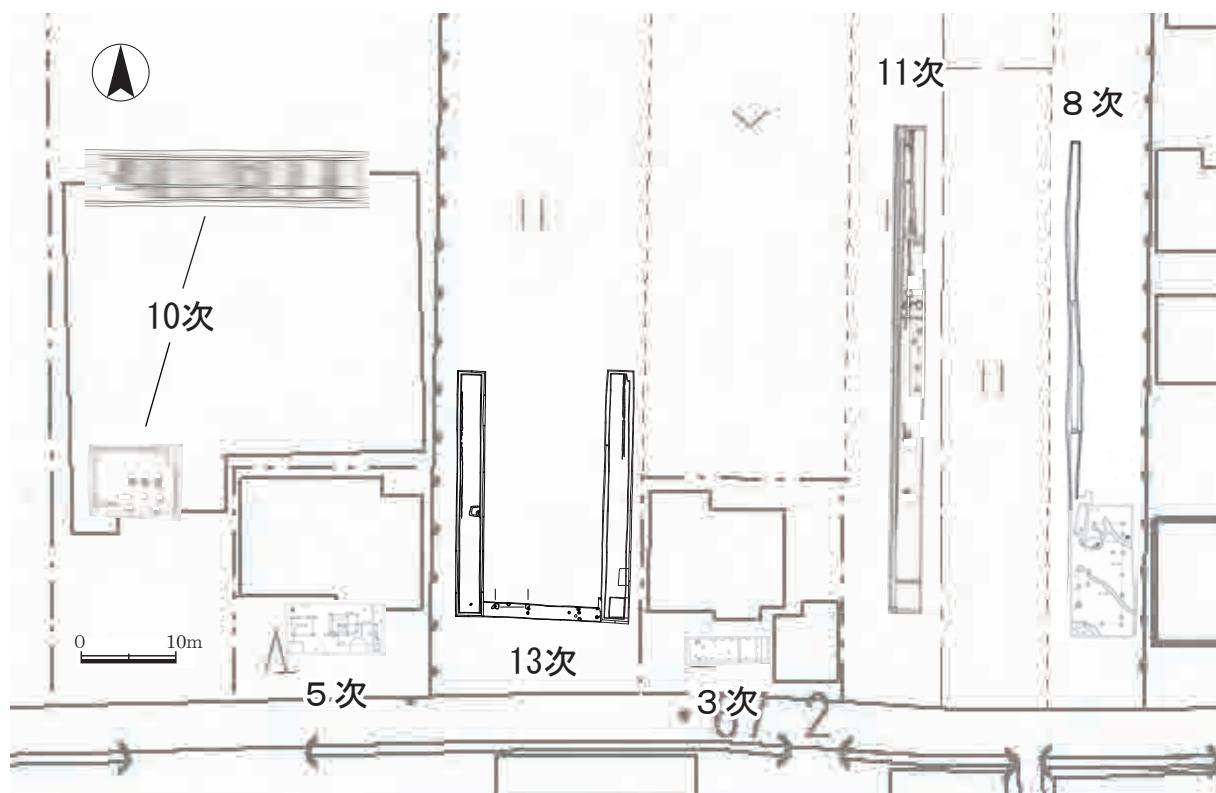


図8 調査地周辺の主な調査 (S=1/800)



第1トレンチ SX101・102検出状況（北西から）



第1トレンチ SX101完掘状況（西から）



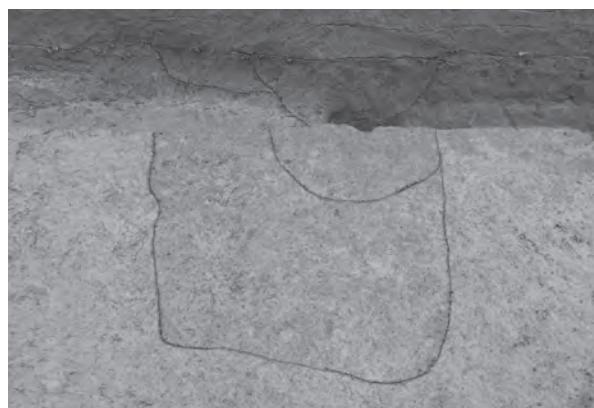
第1トレンチ 全景（北から）



第1トレンチ 東壁土層断面（北西から）



第1トレンチ 北壁土層断面（南から）



第2トレンチ SX201（西から）



第2トレンチ SX201完掘状況（西から）



第2トレンチ 全景（南から）



第2トレンチ 西壁土層断面（南東から）



第2トレンチ 北壁土層断面（南西から）



第2トレンチ 南壁土層断面（北東から）



拡張区 遺構検出①（南東から）



拡張区 遺構検出②（南西から）



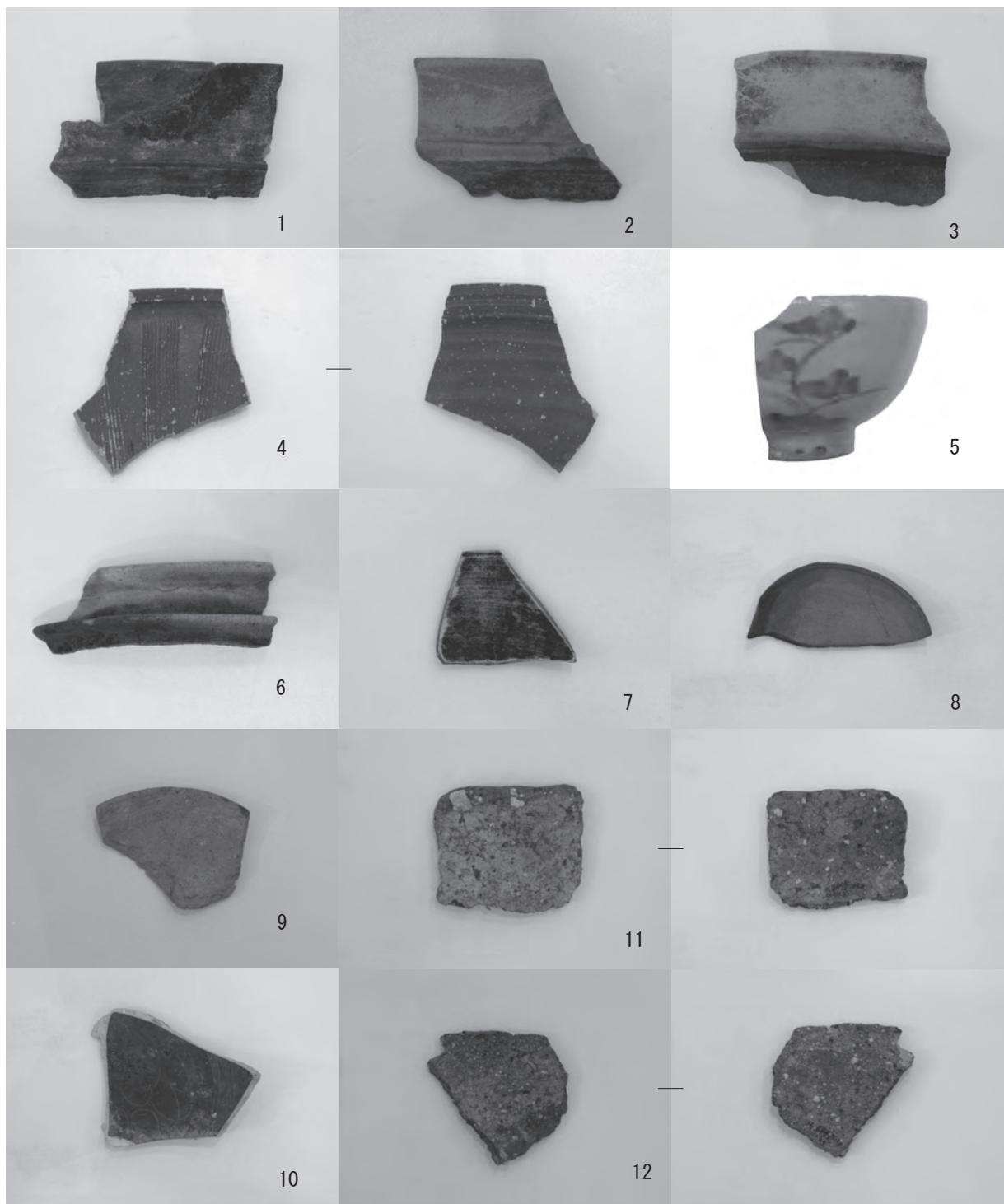
拡張区 全景（南西から）



拡張区 全景（南東から）



拡張区 北壁土層断面（南西から）



1～5 SX101 出土遺物、6～8 2 tr 南北素掘小溝出土遺物
9・10 SP201 出土遺物、11・12 2 tr 側溝出土遺物

2. 上之庄遺跡第12次発掘調査

1. はじめに

本調査は、奈良県桜井市大字東新堂小字ミサンザイ、上之庄小字西小森において実施された、店舗建設に伴う事前の発掘調査である。同調査地では、過去に第8次調査がおこなわれており、主に鎌倉時代と古墳時代後期の流路跡をはじめとした複数の流路跡と、古墳時代のものと考えられる掘立柱建物2棟を検出している。古墳時代後期の流路跡からは柵状に打設された多くの杭が検出され、周辺から須恵器・土師器・木製品などの多量の遺物が出土した。この他特筆すべきものとして碧玉製管玉・鉄製刀子・ガラス小玉鋳型・下駄・加工材などが出土地している。

第8次調査で検出された流路1（13世紀後半）の東肩の確認を目的として、第1トレンチ（西部：東西約4.5m、南北約3m、東部分：約東西5m、南北約3m）と第5トレンチ（東西約30m、南北約4m）を設けた。また、第3トレンチ（東西約9m、南北約4m）は、流路1と流路2（6世紀末）の東肩の確認を、第4トレンチ（東西約17m、南北約4m）では流路5（13世紀後半）の東肩を確認するために設定した。なお、第4トレンチについては一部拡張をおこなっており、また、第

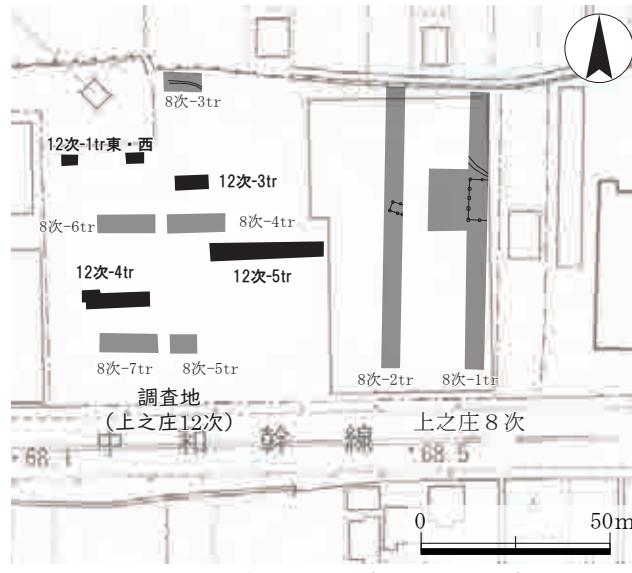


図9 調査位置図 (S=1/2,000)



図10 調査区位置図 (S=1/15,000)

2トレンチについては第1トレンチの掘削から遺構面に到達しなかったため、設定しなかった。調査面積は計248m²である。現地調査は令和6年8月10日に着手し、同10月19日に終了している。

2. 調査の概要

(1) 第1トレンチ(図10)

第1トレンチは当初、建設予定の店舗基礎部分を対象として、南北3m、東西24mの調査区を設定した。しかし、建物基礎の掘削深度がGL-140cmまでであることから、重機掘削時にGL-140cmで近現代の耕作土内に納まることが確認された。そのため全面の掘削を中止し、当初設定した第1トレンチの東西両端のみ重機で掘削をおこない、部分的に断割りを入れ下層の堆積状況のみ確認して調査を終えている。

基本層序は、造成土(第1層 層厚約70cm)、現代造成土の攪乱(第2層 層厚約40cm)、耕作土(第3～5層 層厚60cm)は、第6層(層厚約15cm)は流路1の堆積と考えられ、木片と土師器片が出土している。第1トレンチ西については、造成土(第1層 層厚約100cm)、現代造成土の攪乱(第2層 層厚40cm)、現代耕作土層(第3層～第5層)と考えられる。当初の目的であった第8次調査の流路1を平面では確認することはできなかったが、流路1と考えられる堆積を確認することができたのは成果であった。

(2) 第3トレンチの概要と基本層序(図11)

基本層序は造成土(第1層層 厚約100cm)、現代耕作土(第2層 層厚約16cm)、近・現代耕作土(第3層 層厚約30cm)、床土(第4層 層厚約10cm)、中世耕作土(第5層 層厚約21cm)、流路の砂層(第6層 層厚約10cm)、地山粘土層(第7層 層厚20cm以上)である。包含層はなく、中世耕作土と地山粘土層の間の層からは土器が数点出土している。地山粘土層上面では、素掘り小溝と多数のピット、古墳時代後期と考えられる流路跡と中世流路跡を確認することができたが、中世流路跡で遺物が出土しなかった。当初の目的であった第8次調査で確認された古墳時代後期の流路2の東肩を確認することができたのは成果である。

(3) 第4トレンチの概要と基本層序(図12)

基本層序は造成土(第1層 層厚約110cm)、造成土(現代耕作土の攪乱)(第2層 層厚約20cm)、現代耕作土(第3層 層厚約10cm)、近～現代耕作土(第4層 層厚約30cm)、地山砂層(第5層 層厚約15cm)、地山粘土(第6層 層厚約10cm)である。

地山砂層上面では多数の素掘り小溝と、トレンチ西端において直径約170cm、最大深約100cmの円形掘方の井戸(SE4001)を確認した。井戸の底からは須恵器壺片(図13-6)が出土していることから、遺構の時期は7世紀末から8世紀初頭と考えられる。当初の目的である第8次調査で確認された流路5の堆積を確認することができなかったことから、流路は調査区の西側に存在すると考えられる。

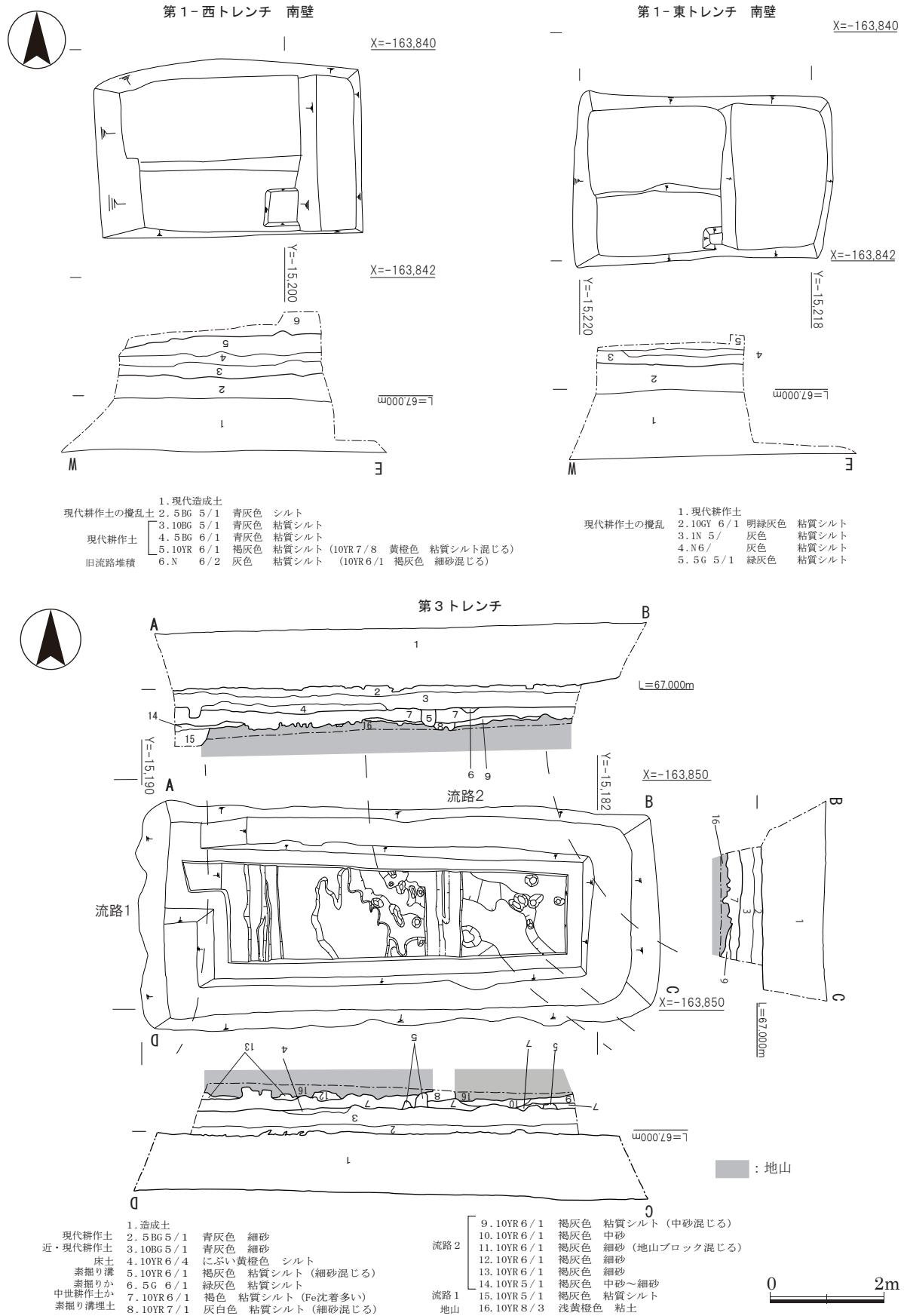


図 11 上之庄遺跡第12次調査 第1・第3トレンチ平面・断面図 (S=1/100)

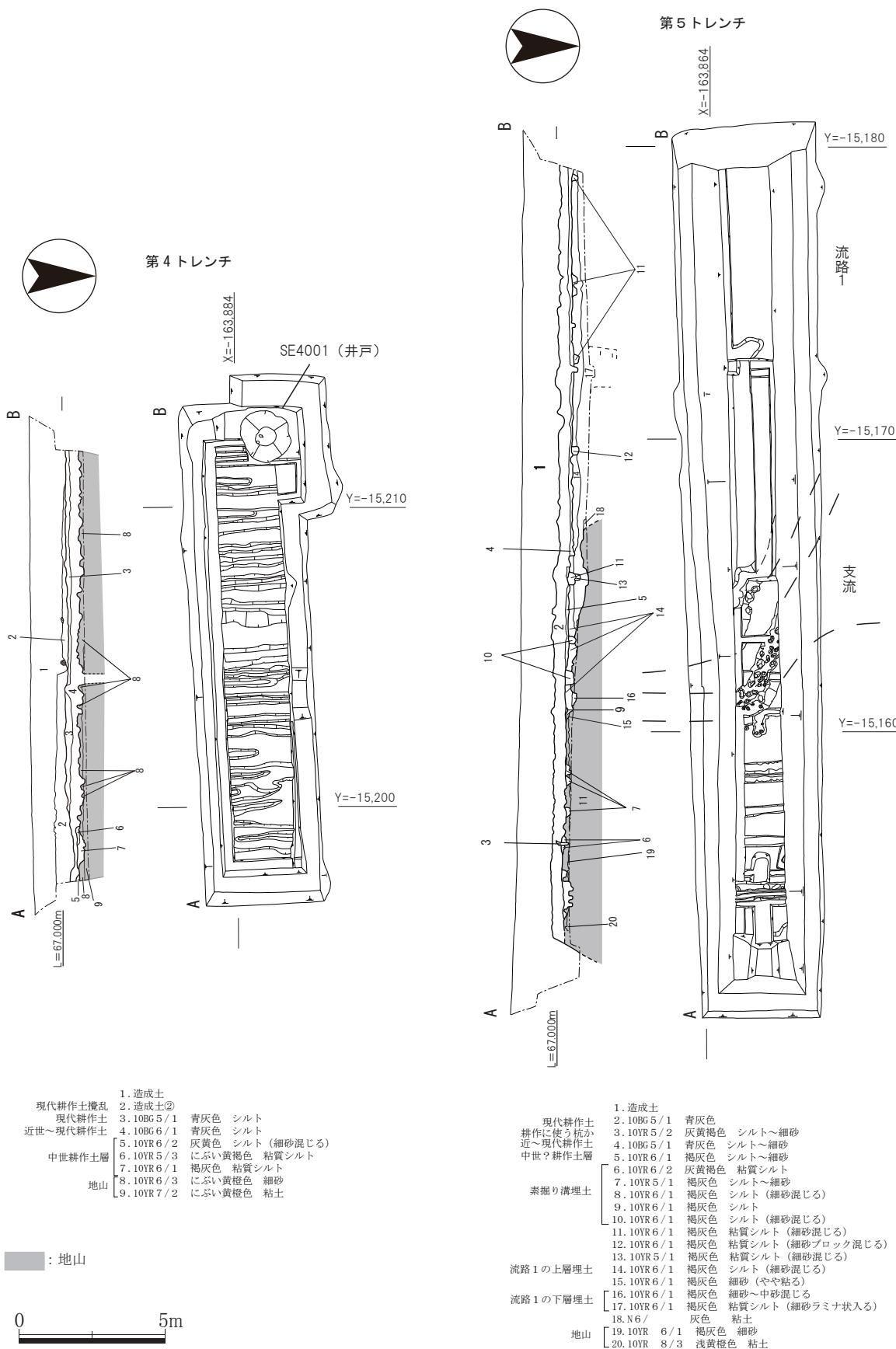


図 12 上之庄遺跡第12次調査 第4・第5トレンチ平面・断面図 (S=1/200)

(4) 第5トレーニチの概要と基本層序 (図12)

基本層序は造成土(第1層 層厚約120cm)、現代耕作土(第2層 層厚約30cm)、近～現代耕作土(第3層 層厚約11cm)、中世耕作土？(第4層 層厚約10cm)、地山細砂層(第5層 層厚約20cm)、地山粘土層(第6層 層厚10cm以上)である。地山細砂層上面にて、素掘り小溝を複数と流路1の東肩、流路2の堆積の一部を確認した。

(5) 出土遺物 (図13)

本調査で出土した遺物には土師器、須恵器、黑色土器、サヌカイトなどがあり、コンテナケース3箱分であった。図化できるものを図13で示した。個々の遺物の詳細な観察初見等は遺物観察表(表3)を参照されたい。

1は第3トレーニチの流路の黒褐色土から出土したサヌカイトの石製未成品、2は第3トレーニチ平面精査から出土した瓦器塊である。第4トレーニチの井戸(SE4001)からは3～7が出土した。4は縄文土器である。第5トレーニチの流路1からは、8、10、12、14、15、16が出土し、中世流路と思われる所からは11、17が出土している。第5トレーニチの北側溝では9が出土、地山粘土検出部分のやや東で13が出土した。

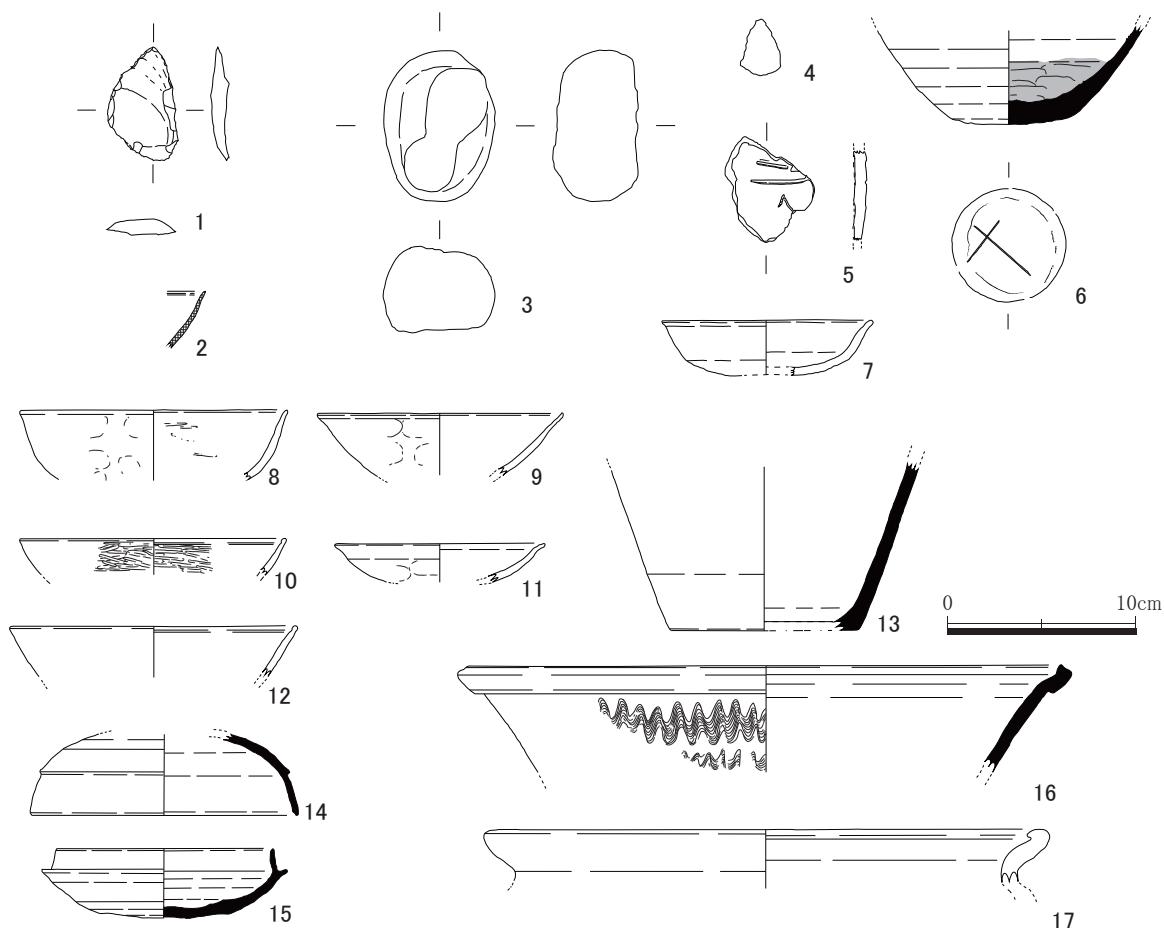


図13 出土遺物実測図 (S=1/4)

3.まとめ

調査の結果、第3トレンチで古墳時代後期の流路1と流路2の東肩を確認した。流路1と流路2は第8次の第4トレンチでも確認されており、その延長部分を確認する形となった。第4トレンチでは素掘り小溝と井戸を確認している。本調査の第4トレンチは流路5については確認することができなかつたが、検出された井戸は藤原京期のものと考えられ、井戸の祭祀に使われた土器も確認することができた。第5トレンチでは流路1の東肩を確認することができた。過去の調査で確認された流路の幅や流れる方向を確認することができたのは今回の成果である。
(宮崎)

【参考文献】

- 福辻淳 2004 「上之庄遺跡第9次調査」『桜井市埋蔵文化財2003年度発掘調査報告書2』 (財)桜井市文化財協会
福家恭 2008 「上之庄遺跡第11次調査」『桜井市埋蔵文化財2008年度発掘調査報告書』 (財)桜井市文化財協会

表3 上之庄遺跡第12次調査 出土遺物観察表

図番号	種別	器種	地区・遺構	層位	技法 他	法量(cm)			残存	胎土	色調	備考
						口径	底径	器高(残高)				
図13-1	サヌカイト	未成品	第3トレンチ 流路2	黒褐色土		(最大長)6	(最大幅)3.6	(厚み)0.8	不明		外面:N5灰色 内面:N5灰色	
図13-2	瓦器	塊	第3トレンチ 平面精査 中世耕作土		外面:摩滅 内面:摩滅	不明	不明	3	破片	密(1mm以下の砂粒を含む)	外面:2.5Y3/1暗オリーブ灰色 内面:N7/灰色	
図13-3	石	不明	第4トレンチ SE4001	最下層		(最大長8)	(最大幅)5.9	(厚み)4.3	不明			重量 300g
図13-4	縄文	不明	第4トレンチ 拡張区 SE4001埋土			不明	不明	3	破片	密(2mm以下の砂粒など多く含む)	外面:10YR5/2灰黄褐色 内面:10Y7/2にぶい黄橙色	
図13-5	不明	土器	第4トレンチ 拡張区 SE4001埋土	中層 ~下層	外面:ナデ、波状文 内面:ナデ	不明	不明	4.6	破片	密(3mm以下の砂粒・雲母含む)	外面:2.5Y5/2暗灰黃 内面:10Y6/1灰、6/2オリーブ灰の中間	
図13-6	須恵器	壺か	第4トレンチ SE4001	中層 以下	外面:ヘラ削り 削り後ナデ 内面:ナデ	不明	6	5.2	底部のみ	密(1mm以下の砂粒などを含む)	外面:N7/灰白6/1灰色の中間色 内面:N6/1灰色・N1.5黒色	
図13-7	土師器	塊	第4トレンチ SE4001	中層 ~下層	外面:ナデ、削り後ナデ 内面:ナデ	11	不明	2.9	口径1/4 全体 2.5%	密(1mm以下の砂粒などを含む)	外面:10YR5/黒鈍い黄褐色 内面:N2/黒色	
図13-8	土師器	塊	第5トレンチ 西端深堀 流路1	粘質シルト	外面:ナデ(指痕)、削り後ナデ(指痕) 内面:ナデ、ミガキ少し残る	14	不明	3.7	口径1/12 全体不明	密(2mm以下の砂粒・雲母・赤褐色など多く含む)	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:2.5Y6/2灰黄色、2.5Y6/3鈍い黄色	
図13-9	土師器	塊	第5トレンチ 流路1	黒褐色粘土付近		13	不明	3.3	口径1/13 全体不明	密(1mm以下の砂粒・雲母を含む)	外面:5YR6/4にぶい橙色、 5YR6/6色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色、 5YR6/4にぶい橙色	
図13-10	黒色土器	塊	第5トレンチ 流路1	暗灰色シルト	外面:ナデ、ミガキ 内面:ミガキ、ナデ	14	不明	1.9	口径1/14 全体不明	密(1mm以下の砂粒を含む)	外面:2.5Y5/2暗灰黄色、N3/暗灰色 内面:N2/暗灰色	
図13-11	土師器	皿	第5トレンチ 流路1	上層	外面:ナデ 内面:ナデ	11	不明	2	口径1/12 全体不明	密(1mm以下の砂粒を含む)	外面:10YR8/3浅黄橙色 内面:10YR8/3浅黄橙色	
図13-12	黒色土器	塊	第5トレンチ 西半北壁		外面:摩滅 内面:摩滅	15	不明	2.7	口径1/20 全体不明	密(1mm以下の砂粒・雲母を多く含む)	外面:N31暗灰 内面:N31暗灰	
図13-13	須恵器	壺	第5トレンチ 西端深堀 流路1	粘質シルト	外面:回転ナデ 一部自然彩付着 ヘラ削り 内面:ナデ 一部自然彩付着 回転ナデ	不明	10	8.5	底径1/6 全体不明	密(1mm以下の砂粒・雲母を多く含む)	外面:5Y7/1灰白色 内面:5Y7/1灰白色(より濃い)	

図13-14	須恵器	蓋	第5トレンチ 西端深堀 流路1	外面:回転ナデ ⁺ ヘラ削り 内面:回転ナデ ⁺	14	不明	4.3	口径1/7 全体不明	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	外面:N6/1灰色 内面:N1/5灰色		
図13-15	須恵器	坏身	第5トレンチ 西端深堀 流路1	粘質 シルト	外面:回転ナデ ⁺ 回転削り 内面:ナデ ⁺ 一部自然彩付着 回転 ナデ ⁺	11.4	不明	3.7	不明	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	外面:N5/灰色 内面:N6/灰色	
図13-16	須恵器	甕	第5トレンチ 西端深堀 流路1	下層	外面:回転ナデ ⁺ 後波状文 内面:回転ナデ ⁺	31.4	不明	5.6	口径1/9 全体不明	密(1mm以下の砂粒を多く含む)	外面:10YR5/1赤灰色、10BG6/1 青灰色 内面:10YR5/1赤灰色	
図13-17	土師器	羽釜	第5トレンチ 西端深堀 流路1	上層	外面:ナデ ⁺ 内面:ナデ ⁺	28.6	不明	2.8	口径1/20 全体不明	密(1mm以下の砂粒・雲母を含む)	外面:2.5Y8/3浅黄色 内面:2.5Y8/3浅黄色	

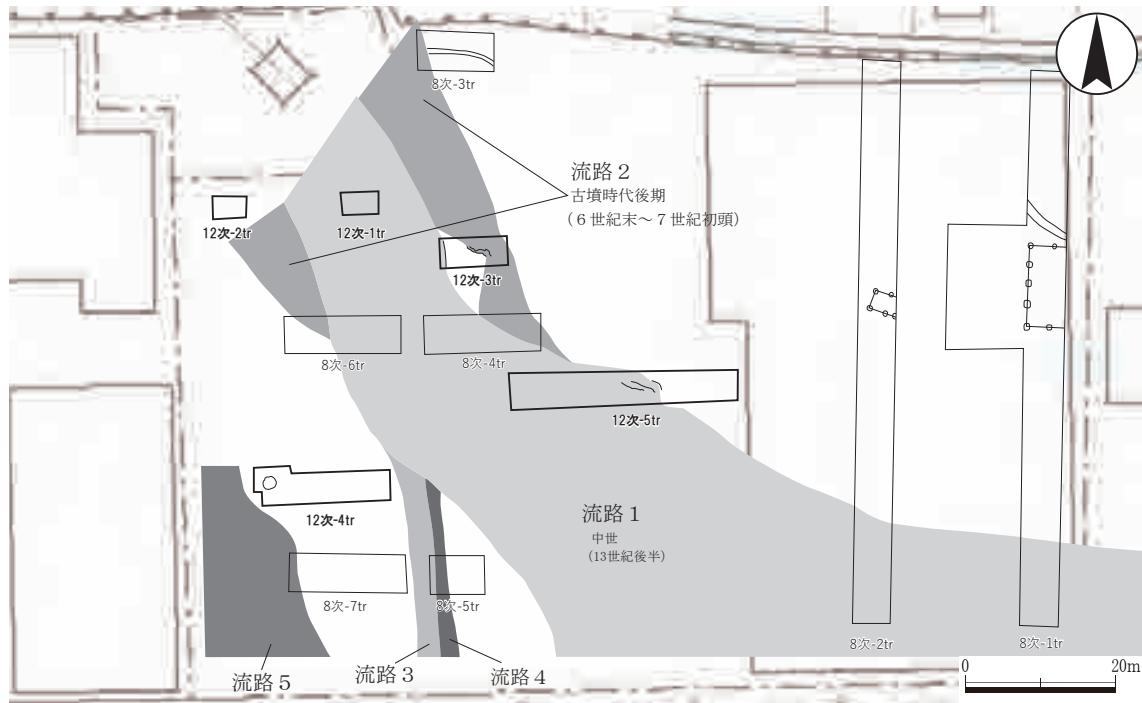
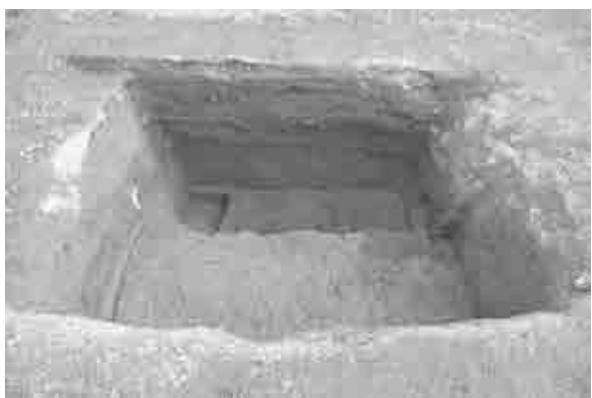


図14 流路復元図 (S=1/1,000)



第1トレンチ東 南壁土層断面（北から）



第1トレンチ西 南壁土層断面（北から）



第3トレンチ 全景（南東から）



第3トレンチ 北壁土層断面（南東から）



第4トレンチ 全景（東から）



第4トレンチ SE4001土層断面（東から）



第5トレンチ 全景（東から）



第5トレンチ 流路1・2（南東から）

3. 大藤原京関連遺跡第75次発掘調査

1. はじめに

大藤原京関連遺跡第75次調査は、桜井市大字大福小字ヲチタでおこなわれた道路拡幅工事に伴う発掘調査である。調査地は近鉄大福駅より南西に100mほどの場所に位置している。

周辺では、今回調査地のすぐ北側で実施された60次調査で東八坊坊間路の東西両側溝が検出されている。また、東側で実施された35・74次調査では北一条条間路の南北両側溝が検出されており、主に藤原京の条坊に関連する遺構が検出されている。また調査地の南100mの位置には横大路が敷設されている。こうした周辺での調査状況から、今回調査地は藤原京の宅地内に位置しており、藤原京期の邸宅に関連す

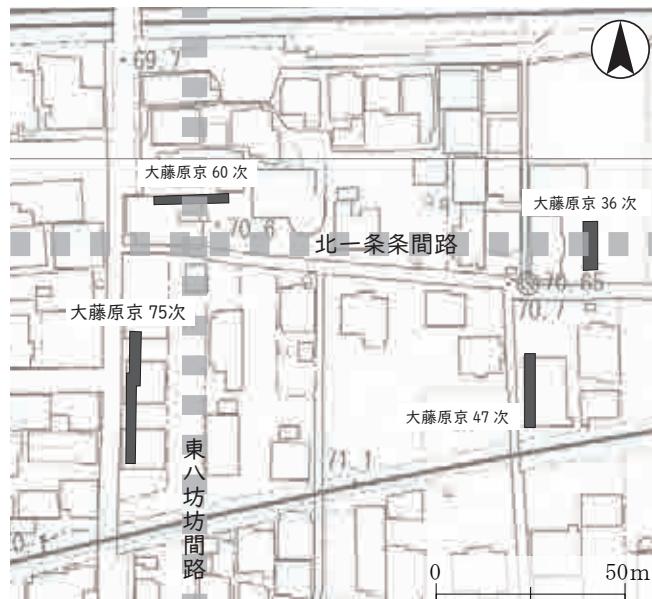


図15 調査位置図 (S=1/2,000)

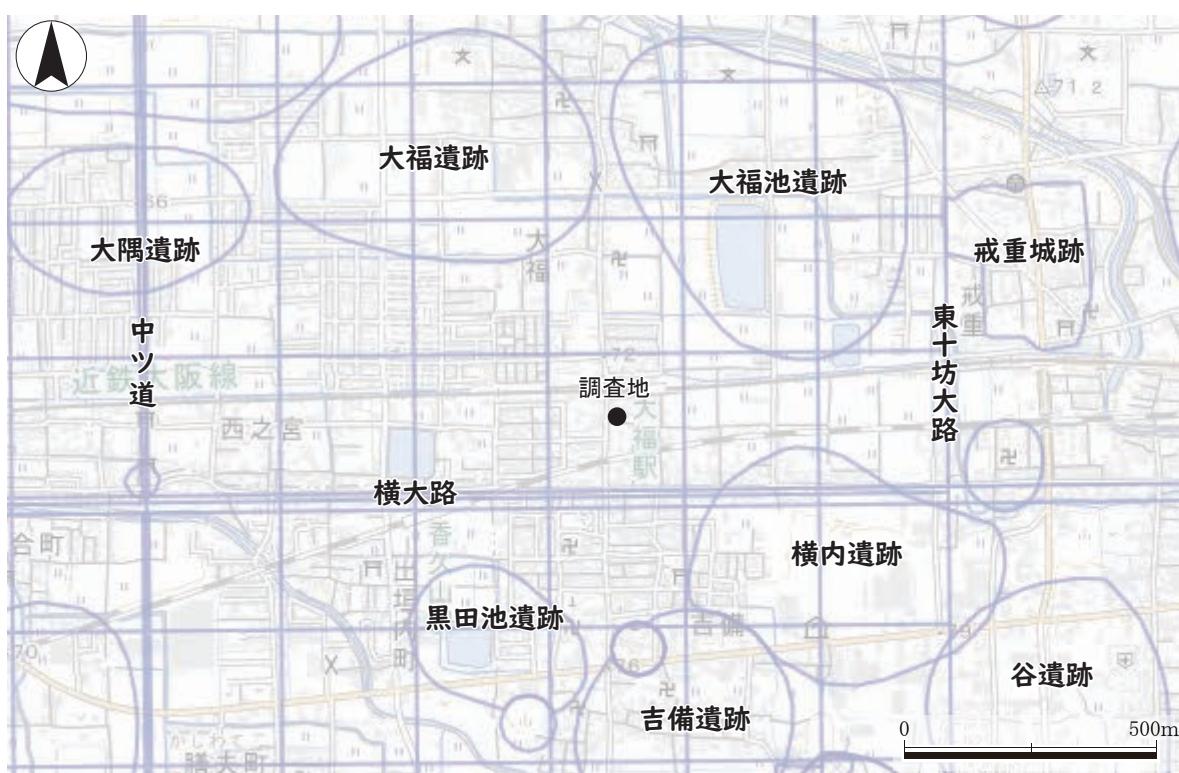


図16 調査区位置図 (S=1/15,000)

る遺構の検出が期待された。

1. 調査の概要

今回の調査では、市道拡幅部分を対象として幅3m、長さ35mの南北に長い調査区を設定した。調査地の基本層序は上から現代造成土、現代～耕作土、遺物包含層、地山の順である。調査区全体で、地山面上層に藤原京期の遺物や炭化物を含む包含層が広がっており、検出された遺構はいずれもこの包含層上面から掘削されていた。また、調査区北端付近では、弥生時代後期の土器小片をわずかに含む砂層が確認されており、包含層形成以前に流路が存在したことが明らかとなった。

主な遺構は土坑、掘立柱建物1棟、井戸などが検出されている。いずれも藤原京期に属するものである。

SK08 調査区南半で検出された不整形な土坑である。長径約60cm、深さ約30cmを測る。埋土は上下2層に分けられるが、特に下層の灰白色粘質シルト層は極めて軟質で多量の炭化物が含まれており、出土した遺物も大半がこの層より出土している。

SK09 調査区南半で検出された楕円形を呈する土坑である。長径1.4m以上、深さ約30cmを測る。こちらもSK08と同様で、下層の灰白色粘質シルト層には多量の炭化物と土器が含まれていたほか、多数の桃核も出土している。

掘立柱建物1 (SE18～23) 調査区南半で検出された6基の柱穴から構成される掘立柱建物である。柱穴は外側が隅丸方形で内側に円形の柱穴が並ぶ。柱間間隔はいずれも1.3mほどで南北それぞれの方向に続く柱穴が見つかなかったことから、東西に長い建物であったと考えられ、少なくとも南北2間、東西2間以上の柱間であったと考えられる。総柱建物とすれば、倉庫の可能性が考えられよう。出土遺物はいずれも小片であったが、藤原京期に属するものと考えられる。

SE35 調査区北側で検出された。当初は方形の角部を持つ遺構として検出したが、上層埋土を掘削した後に円

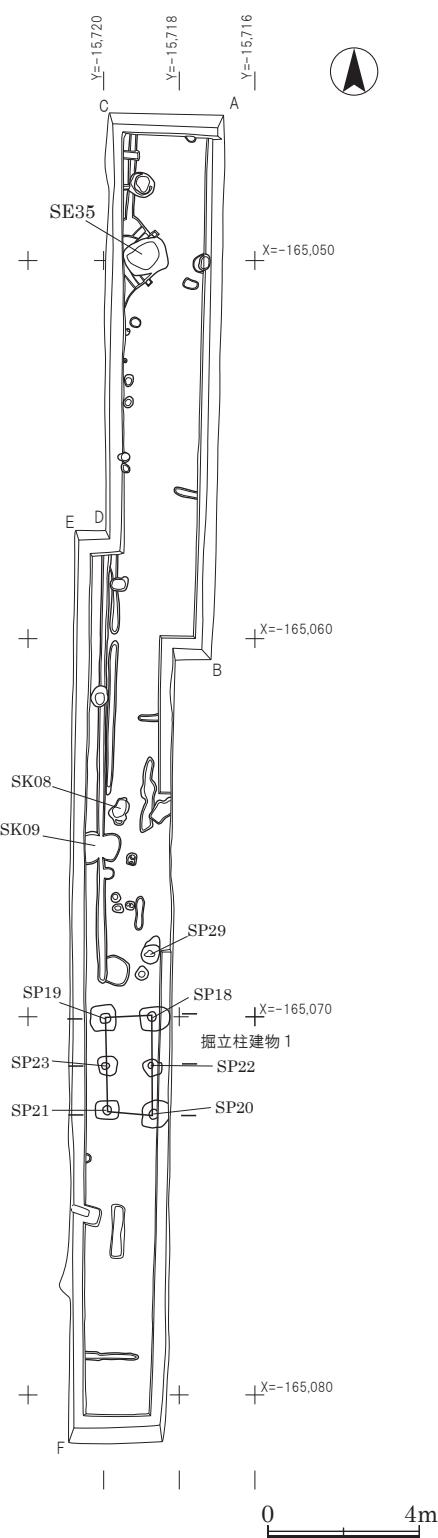


図17 大藤原京関連遺跡第75次調査
調査区平面図 (S=1/200)

形の輪郭を再度検出した。径約1m、深さ約40cmを測り、井戸枠を持たない素掘りの井戸である。藤原京期に属する土器が出土している。

出土遺物については、そのほとんどが藤原京期に属する土師器や須恵器などで、一部平瓦の小片なども出土している。これらの中で特筆すべきものとしては、SP29から石製紡錘車片が1点出土している。

3.まとめ

周辺の調査では、これまで東八坊間路や北一条条間路など条坊道路の痕跡が確認してきた。それに対し今回の調査地は、周辺で確認された条坊道路によって区画された敷地内にあたる。主に東西方向の掘立柱建物や井戸、土坑などを確認し、邸宅地として利用されていたことが明らかとなった。

また、邸宅地内の遺構の粗密についても、掘立柱建物1より南では搅乱以外に遺構は検出されておらず、こうした遺構の分布状況から宅地内での土地利用の一端をうかがい知ることができる成果となつた。

(飯塚)



調査風景

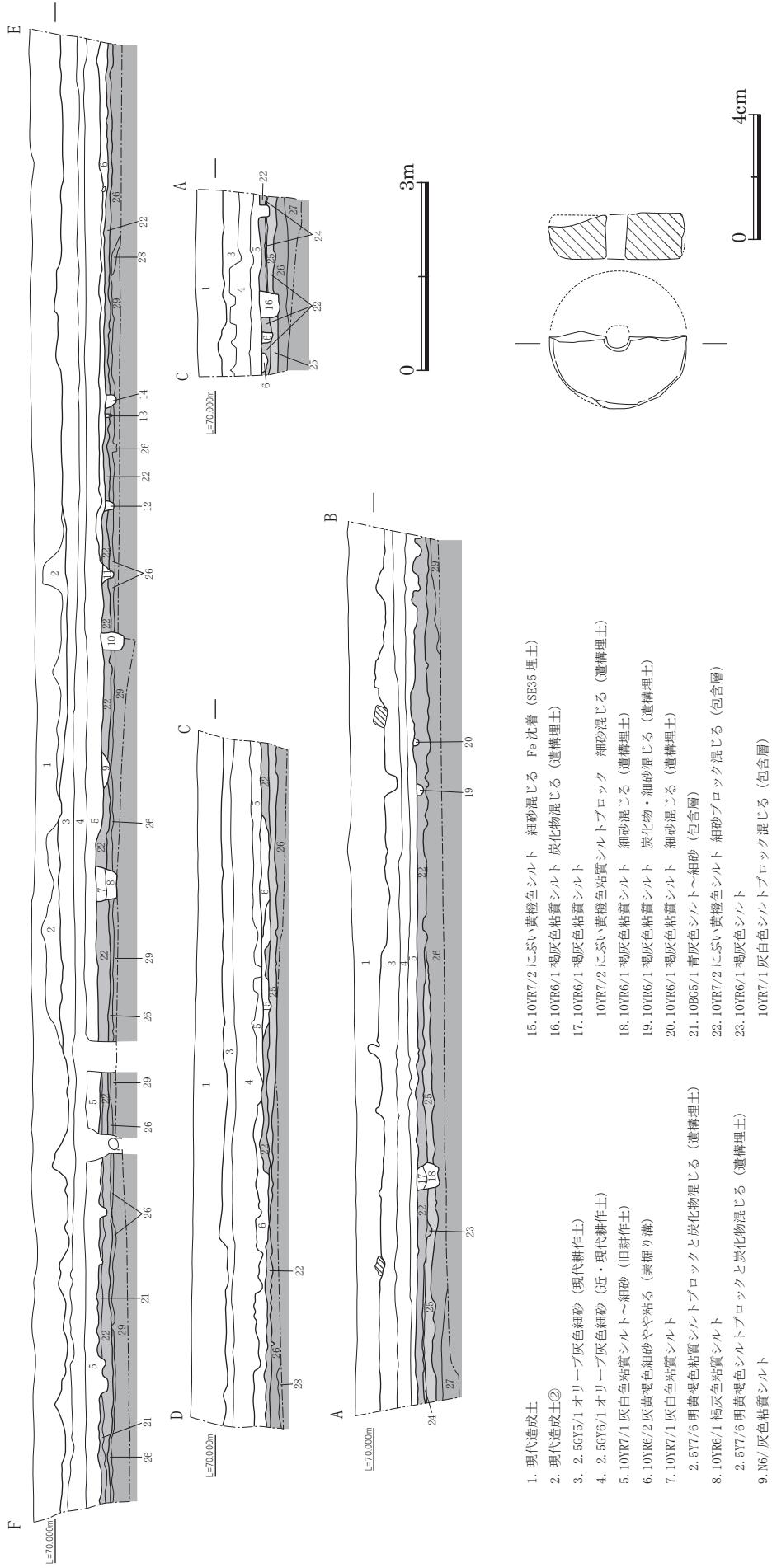


図19 SP29出土石製紡錘車 (S=1/2)

図18 大藤原京関連遺跡第75次調査 調査区土層断面図 (S=1/100)



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



SK08土層断面（東から）



SK08遺物出土状況（西から）



SK09土層断面図（南から）



SK09遺物出土状況（西から）



SP18~23検出状況（東から）



SP18~23完掘状況（東から）



SE35検出状況（南東から）



SE35完掘状況（南東から）



調査区西壁土層断面①（南東より）



調査区西壁土層断面②（南東より）



調査区西壁土層断面③（南東より）



調査区西壁土層断面④（南東より）



調査区北壁土層断面（南から）



調査区西壁土層断面④（南東から）

4. 纏向遺跡第205次発掘調査

1. はじめに

纏向遺跡第205次調査は、桜井市大字太田小字堀川で計画された宅地造成事業に先立つ発掘調査として実施された。

205次調査は、遺跡内で最も面積の大きい太田微高地内の南域に位置している。周辺では、149次調査で庄内1～2式に属する木製仮面が出土している。また195次調査では、幅3m程の柵状の遺構を持つ溝から多数の木製品が出土している。この中には鞘や柄頭などの木製刀剣装具が多数含まれているが、中でも鹿角製Y字式柄頭が含まれる点は特筆される。

今回の調査では、このような周辺の状況を踏まえ、太田微高地南域での遺構の広がりを確認することを主な目的とした。

2. 調査の概要

調査区は調査対象地内を南北に貫く道路の拡幅部分を対象とし、幅1.5m、南北96mで設定している。途中、部分的な拡張をおこない最終的な調査面積は146.8m²であった。

調査区の基本層序は上から現代耕作土、旧耕作土、遺物包含層、地山層となる。遺構は主に、調査区全域で遺物包含層上面と地山層上面で検出している。地山層上面ではおおむね庄内式期から布留0式までの遺構を検出しており、包含層上面では布留0～1式頃の遺構を検出している。主な検出した

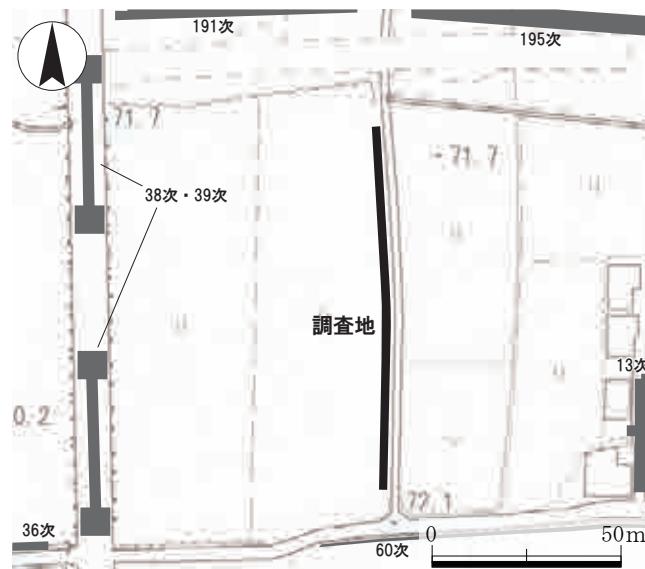


図20 纏向遺跡205次調査位置図 (S=1/2,000)

2. 調査の概要

調査区は調査対象地内を南北に貫く道路の拡幅部分を対象とし、幅1.5m、南北96mで設定している。途中、部分的な拡張をおこない最終的な調査面積は146.8m²であった。

調査区の基本層序は上から現代耕作土、旧耕作土、遺物包含層、地山層となる。遺構は主に、調査区全域で遺物包含層上面と地山層上面で検出している。地山層上面ではおおむね庄内式期から布留0式までの遺構を検出しており、包含層上面では布留0～1式頃の遺構を検出している。主な検出した



図21 調査区位置図 (S=1/15,000)

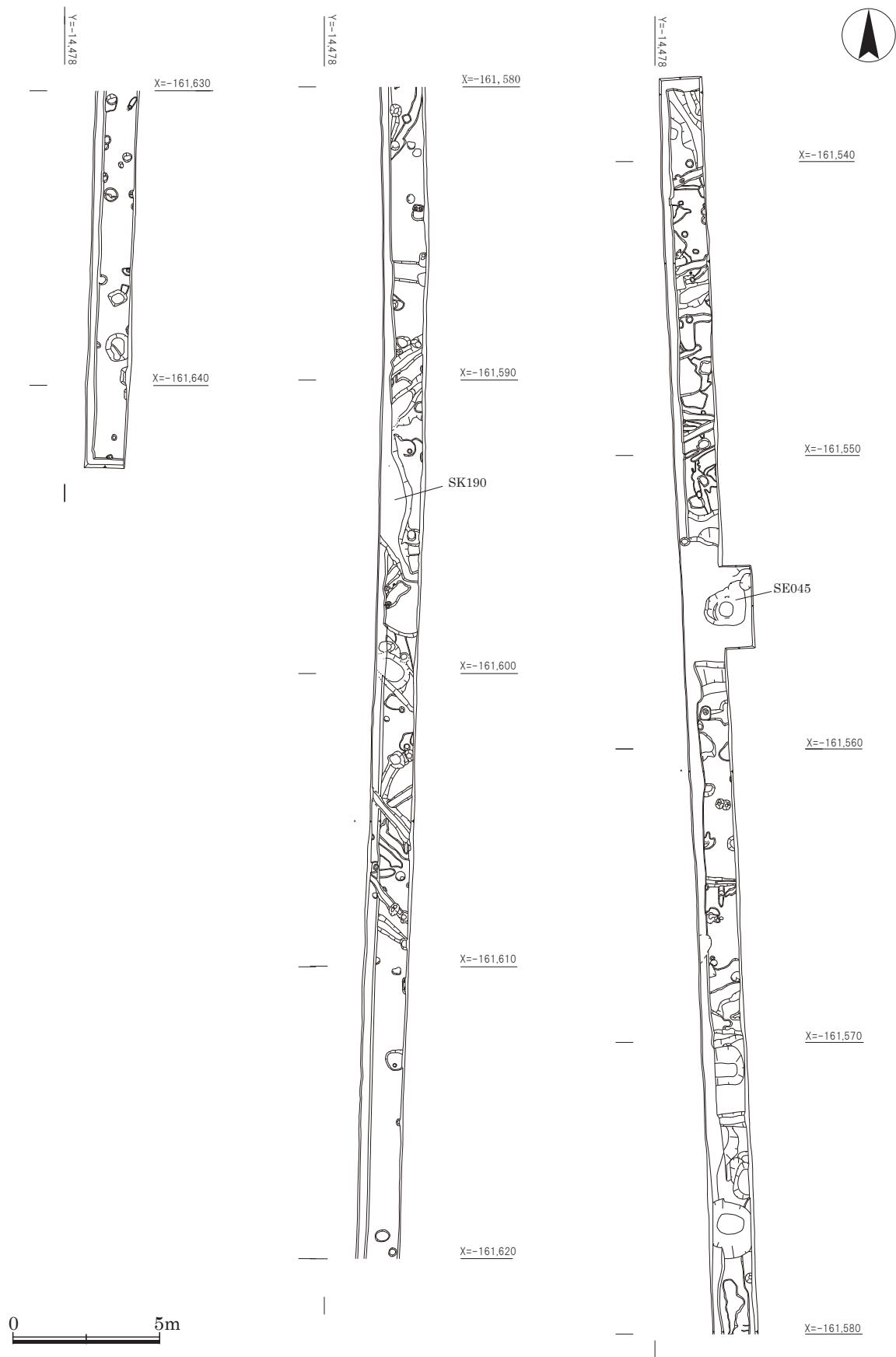


図 22 纏向遺跡第 205 次調査 平面図 (S=1/200)

遺構は土坑、柱穴、溝、井戸などがある。

SE045 調査区北側で検出された井戸である。割り貫き式の井戸枠を持ち、井戸枠は径約 60cm、高さ約 130cm を測る。SE045 は、先行する幅 6 m 程の溝が埋没したのちに掘削されており、井戸枠内部より布留 1 式の土器が出土している。

SK190 調査区南側で検出された土坑である。狭小な調査区のため一部のみしか確認できていないが、円形または橢円形状の土坑と考えられ、調査区西壁で幅約 3.6m を確認している。深さは約 50cm で、底面付近の下層埋土として、厚さ約 6 cm の腐植土層が全面に堆積していた。この腐植土層からは漆塗りの木製柄頭片 1 点が出土している。この他にも木製品の加工時に発生したと思われる、加工痕を残す木材片が大量に出土しており、木製品製作時の廃材を廃棄した土坑と考えられる。共伴する土器の時期から布留 0 式期と考えられる。

3.まとめ

今回の調査では、狭小な調査区ながら非常に多くの遺構を確認することができた。いずれの遺構も概ね布留 0 ~ 1 式期に帰属するものと考えられ、これまで指摘されてきた布留式期に纏向遺跡の範囲が拡大するという現象を捉えたものであろう。ただし、調査区の南へ行くほど遺構密度は薄くなっている、微高地の南縁辺部に近づくにつれ遺構の量が減少していく傾向にあるといえる。

また特筆すべき遺物として、SK190 で漆塗り木製柄頭が出土している。調査地周辺では 195 次調査で柄や鞘、鞘尻など複数の刀剣装具が出土しており、今回出土の柄頭も合わせて、近隣でこうした刀剣装具を生産する工房が存在した可能性も考えられるようになった。このように僅かな範囲の調査であったが、周辺の調査成果と合わせて、太田微高地南辺部での土地利用の一端をうかがい知ることができた。

(飯塚)

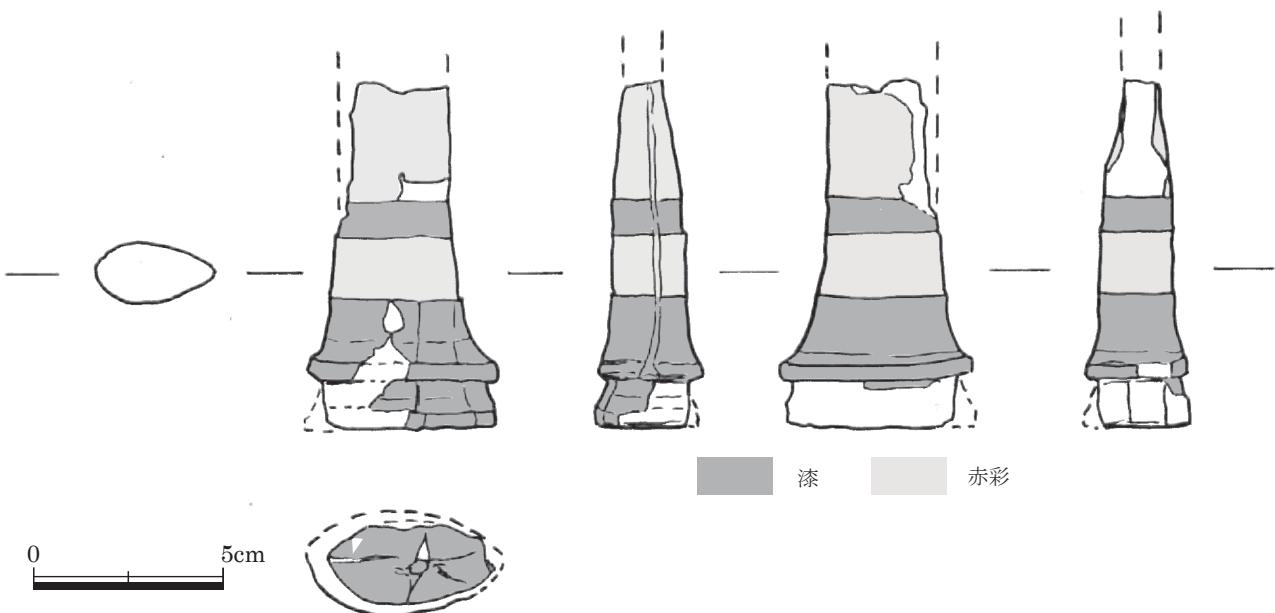


図 23 木製柄頭実測図 (S=1/2)



調査区全景（北から）



SE045検出状況（西から）



SE045井戸枠全景（西から）



SE045井戸枠内土層堆積状況（西から）



SE045井戸枠内面の加工痕



SK190完掘状況（西から）



SK190土層堆積状況（南東から）



SK190柄頭出土状況（北東から）

5. 保存処理

発掘調査により市内から出土した埋蔵文化財の中には、腐食や劣化に伴い、資料としての取り扱いや、通常の保管が困難なもの（主に木製品や金属製品・動物遺存体）がある。それらについては、保存のために科学的処置をおこなっている。

(1) 木製品

木製品を保存するには、乾燥による木材が変形しないよう、また木材の強化をする必要がある。当センターでは細胞壁内の水分を糖アルコールに置換え、結晶化させる処理をおこなっている。令和6年度に保存処理を実施したのは、以下のとおりである。

調査名	件数
纏向遺跡第195次調査	16点



保存処理後の木製品
(纏向遺跡第195次調査 鋤)

(2) 金属製品

金属製品は、そのまま放置していると錆が進行し、遺物の原形が崩れしていくので、これ以上錆が進行しないようにまず錆を除去する。その後脱塩処理をすることで腐食の進行を抑制させる。そして乾燥させ、遺物の強化と再汚染を防止するためにアクリル樹脂（パラロイド-B72）でコーティングをする処理をしている。令和6年度に処理を実施したものは、以下のとおりである。



保存処理後の金属製品
(谷城跡第1次調査 不明鉄器)

調査名	件数
谷城跡第1次調査	2点

(3) 動物遺存体（骨）

動物遺存体（骨）は、脱水したのちに、強化を目的にアクリル樹脂（パラロイド-B72）を含浸している。令和6年度に保存処理を実施したのは、以下のとおりである。

調査名	件数
谷城跡第1次調査	1点



保存処理後の動物遺存体(骨)
(谷城跡第1次調査 齧)

VI. 図書の受領

1. 受領図書・パンフレット

令和6年度に、関係各位から寄贈いただいた図書は、北は北海道から南は沖縄県まで約1,125件であった。その内訳は、以下の通りである。(五十音順)

【北海道】

千歳市教育委員会・北海道埋蔵文化財センター

【青森】

(公財) 黒石市民財団

【岩手】

(公財) 岩手県文化振興事業団・北上市立埋蔵文化財センター・二戸市埋蔵文化財センター・盛岡市遺跡の学び館

【宮城】

仙台市縄文の森広場・多賀城市教育委員会・地底の森ミュージアム

【秋田】

秋田県教育委員会・秋田県埋蔵文化財センター・秋田県立博物館

【山形】

南陽市教育委員会・(公財) 山形県埋蔵文化財センター・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

【福島】

いわき市教育委員会・(公財) いわき市教育文化事業団・郡山市教育委員会・(公財) 福島市振興公社・福島大学行政政策学類考古学研究室

【茨城】

(公財) 茨城県教育財団・筑波大学人文社会ビジネス化学術院

【群馬】

かみつかの里博物館・群馬県地域創生部 文化財保護課・(公財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団・下仁田町教育委員会・高崎市観音塚考古資料館・高崎市教育委員会・富岡市教育委員会

【埼玉】

川越市教育委員会・熊谷市教育委員会埼玉県立嵐山史跡の博物館・埼玉県立さきたま史跡の博物館・所沢市教育委員会・深谷市教育委員会

【千葉】

市原市教育委員会・(公財) 印旛郡市文化財センター・木更津市教育委員会・国立民俗歴史博物館・佐倉市教育委員会・芝山町教育委員会・(公財) 千葉県教育振興財団・千葉市教育委員会・千葉市埋蔵文化財調査センター・八街市教育委員会

【東京】

葛飾区教育委員会生涯学習課・観光考古学会・宮内庁書陵部・小金井市・國學院大學博物館・(公財) 日本文化財保護協会・文京区教育委員会・法政考古学会

【神奈川】

神奈川県教育委員会・(公財) かながわ考古学財団・寒川町教育委員会・茅ヶ崎市教育委員会・(財) 茅ヶ崎市文化振興財団・平塚市教育委員会・藤沢市教育委員会・(公財) 横浜市ふるさと歴史財団

【新潟】

加茂市教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟市教育委員会・新潟市埋蔵文化財センター・新潟市歴史博物館

【富山】

射水市教育委員会・富山市教育委員会・富山県埋蔵文化財センター

【石川】

金沢市埋蔵文化財センター

【福井】

越前町教育委員会・敦賀市教育委員会・福井県教育
庁埋蔵文化財調査センター・若狭町歴史文化課

【山梨】

(特非) 茅ヶ岳歴史文化研究所・山梨県観光文化 ス
ポーツ部・山梨県県土整備部・山梨県立考古学博物
館・山梨県埋蔵文化財センター

【長野】

安曇野市教育委員会・上田市教育委員会・(一財)
長野県文化振興事業団・長野県埋蔵文化財センター・
長野県立歴史館・長野市教育委員会・長野市埋蔵文
化財センター

【岐阜】

各務原市教育委員会・(公財) 岐阜市教育文化振興
事業団・(公財) 多治見市文化振興事業団埋蔵文化
財発掘調査室・多治見市教育委員会・多治見市文化
財保護センター・土岐市教育委員会・(公財) 土岐
市文化振興事業団・土岐市美濃陶磁歴史館・富加町
教育委員会

【静岡】

磐田市教育委員会・掛川市・静岡県埋蔵文化財セン
ター・沼津市教育委員会・浜松市教育委員会・袋井
市教育委員会・富士市教育委員会・富士宮市教育委
員会・三島市教育委員会

【愛知】

あいち朝日遺跡ミュージアム・愛知学院大学文学部
歴史学科・(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団・
愛知県埋蔵文化財調査センター・安城市教育委員会・
安城市歴史博物館・稻沢市教育委員会・春日井市教
育委員会・江南市歴史民俗資料館・(公財) 瀬戸市
文化振興団・豊田市・豊橋市教育委員会

【三重】

伊賀市教育委員会・斎宮歴史博物館・鈴鹿市考古博
物館・鈴鹿市文化スポーツ部文化財課・津市教育委
員会・三重大学人文学部考古学 日本史 東洋史研究
室・三重県埋蔵文化財センター・四日市市

【滋賀】

愛荘町教育委員会・愛荘町立歴史文化博物館・安土
町教育委員会・大津市教育委員会・近江八幡市・甲
賀市教育委員会・滋賀県立安土城考古博物館・滋賀
県立大学人間文化学部・(公財) 滋賀県文化財保護
協会・高島市教育委員会・長浜市・東近江市埋蔵文
化財センター・彦根市教育委員会文化財課・守山市
教育委員会・野洲市教育委員会・(公財) 栗東市スporte
r協会文化財調査課

【京都】

宇治市教育委員会・大山崎町教育委員会・亀岡市教育
委員会・木津川市教育委員会・京田辺市教育委員会・
京都市文化市民局・(公財) 京都市埋蔵文化財
調査研究センター・京都橘大学大学院・京都府教育
委員会・(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター・
長岡京市教育委員会・八幡市教育委員会・(特非)
平安京調査会・舞鶴市教育委員会・(公財) 向日市
埋蔵文化財センター・与謝野町教育委員会・龍谷大
学文学部考古学実習室

【大阪】

池上曾根弥生学習館・和泉市教育委員会・和泉市い
づみの国歴史館・泉大津市教育委員会・泉佐野市教育
委員会・茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料
館・大阪大谷大学博物館・大阪大谷大学歴史文化学
科・(一財) 大阪市文化財協会・大阪大学考古学研究
室篠窯調査団・大阪大学埋蔵文化財調査委員会・(公
財) 大阪府文化財センター・大阪府教育委員会・大
阪府立狭山池博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・大
阪府立弥生文化博物館・大阪歴史博物館・柏原市立
歴史資料館・交野市教育委員会・熊取町教育委員会・
国立民族学博物館・狭山市教育委員会・四条畷市教育
委員会・四条畷市立歴史民俗資料館・島本町教育
委員会・吹田市教育委員会・吹田市立博物館・太子
町立竹内街道歴史資料館・大東市・豊中市教育委員会・
富田林市教育委員会・羽曳野市教育委員会・東
大阪市教育委員会・(公財) 枚方市文化財研究調査会・

藤井寺市教育委員会・松原市教育委員会・八尾市教育委員会・(公財)八尾市文化財調査研究会

【兵庫】

芦屋市教育委員会・赤穂市教育委員会・尼崎市教育委員会・尼崎市立歴史博物館田能資料館・大手前大学史学研究所・加古川市教育委員会・加西市教育委員会・上郡町教育委員会・川西市・神戸市文化スポーツ局文化財課・神戸市埋蔵文化財センター・神戸市立博物館・多可町教育委員会・たつの市立埋蔵文化財センター・播磨町郷土資料館・姫路市教育委員会・姫路市埋蔵文化財センター・姫路市立城郭研究室・兵庫県教育委員会・(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部・兵庫県立考古博物館・福崎町教育委員会・福崎町立神崎群歴史民俗資料館・三木市教育委員会

【奈良】

明日香村教育委員会文化財課・斑鳩町教育委員会・斑鳩町文化財活用センター・生駒ふるさとミュージアム・王寺町・大宇陀政治まちづくり協議会・大神社社務所・大淀町教育委員会・香芝市教育委員会・香芝市二上山博物館・橿原市昆虫館・河合町教育委員会生涯学習課・(公財)元興寺文化財研究所・(独)国立文化財機構 奈良文化財研究所・御所市教育委員会・曾爾村教育委員会・高取町教育委員会・田原本町教育委員会・帝塚山大学考古学研究所・帝塚山大学附属博物館・天理市教育委員会・天理大学文学部歴史文化学科・奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会・奈良県文化 教育 くらし創造部文化財保存課・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・奈良県立万葉文化館・奈良県立民俗博物館・奈良市教育委員会・(大)奈良女子大学・奈良大学博物館・奈良大学文化部文化財学科・奈良文化財研究所 飛鳥資料館・なら歴史芸術文化村・大和郡山市まちづくり戦略課・大和古文化研究会・山添村教育委員会・(公財)由良大和古代文化研究協会・吉野町産業観光課

【和歌山】

有田川町教育委員会・かつらぎ町教育委員会・紀の川市教育委員会・白浜町教育委員会・和歌山県教育委員会・和歌山市産業交流局 和歌山市文化振興課・観光国際部 和歌山城整備企画課・(公財)和歌山県文化財センター・(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団・和歌山県立紀伊風土記の丘

【鳥取】

大山町観光課文化財室・江府町教育委員会・鳥取県・鳥取県埋蔵文化財センター・鳥取県立むきばんだ史跡公園・鳥取市教育委員会・(公財)鳥取市文化財団・日南町教育委員会

【島根】

出雲市教育委員会・出雲弥生の森博物館・島根県立八雲立つ風土記の丘

【岡山】

岡山県教育委員会・岡山県古代吉備文化財センター・岡山市教育委員会・岡山大学考古学研究室・倉敷市教育委員会・倉敷埋蔵文化財センター・総社市産業部観光プロジェクト課

【広島】

呉市教育委員会・(公財)広島県教育事業団・広島県立歴史博物館(ふくやま草戸千軒ミュージアム)・広島市教育委員会・府中市教育委員会

【山口】

下関市教育委員会・土井ヶ浜遺跡 人類学ミュージアム・山口県埋蔵文化財センター・山口市教育委員会・山口大学埋蔵文化財資料館

【徳島】

(公財)徳島県埋蔵文化財センター・徳島大学埋蔵文化財調査室

【香川】

香川県教育委員会・香川県埋蔵文化財センター・(公財)鎌田共済会郷土博物館・丸亀市教育委員会

【愛媛】

(公財)愛媛県埋蔵文化財センター・愛媛大学文化財

調査室・鬼北町教育委員会・(公財)松山市文化スポーツ振興財団

【高知】

(公財)高知県文化財団・高知県歴史文化財課・香南市教育委員会・香南市埋蔵文化財センター

【福岡】

朝倉市教育委員会・糸島市教育委員会・糸島市立伊都国歴史博物館・春日市協働推進部文化財課・苅田町教育委員会・九州国立博物館・九州大学大学院考古学研究室・九州大学埋蔵文化財調査室・久留米市民文化部文化財保護課・上毛町教育委員会・古賀市教育委員会・福岡県人づくり県民生活部文化振興課

【佐賀】

佐賀市地域振興部文化財課

【長崎】

壱岐市立一支国博物館

【大分】

大分市歴史資料館

【宮崎】

えびの市教育委員会・宮崎県埋蔵文化財センター

【鹿児島】

鹿児島県立埋蔵文化財センター

【個人】

寺澤 薫

橋本輝彦

松宮昌樹

森暢郎

森田成男

令和 6 年度
桜井市立埋蔵文化財センター
年報

発行年月日 令和 7 年 10 月 1 日
編集・発行 桜井市教育委員会文化財課
奈良県桜井市大字芝 58 番地の 2
桜井市立埋蔵文化財センター内
印 刷 株式会社 明新社
奈良市南京終町 3 丁目 464 番地